

基礎調査の進捗報告

1. 第2次奥州市基本計画の進捗状況について	1
1.1 分野別環境像Ⅰ 循環型社会を目指して一人ひとりが取り組むまち	2
1.2 分野別環境像Ⅱ 豊かな自然と共に生きるまち	7
1.3 分野別環境像Ⅲ いのちとくらしを守るまち	15
1.4 分野別環境像Ⅳ 暮らしやすい快適環境のまち	19
1.5 分野別環境像Ⅴ 地球環境保全に貢献するまち	22
1.6 分野別環境像Ⅵ 地球環境に配慮した人が大きく育つまち	26
2. 奥州市の概況について	30
2.1 自然環境	30
2.2 気候・気象	33
2.3 社会情勢	34
2.4 経済状況	37
2.5 温室効果ガスの排出量	38
2.6 エネルギー	39

1. 第2次奥州市基本計画の進捗状況について

第2次奥州市環境計画における各年度の計画指標の実績値、令和5年度における目標値及び達成状況について以下に示す。次頁以降、個別の計画指標の各年度における実績値、目標値の推移等を示す。

テーマ	環境像	計画指標	単位	実 績								目標 (R5年度)	達成度 (%)	評価 (R5年度)
				H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
廃棄物	I 循環型社会を目指して一人ひとりが取り組むまち	1人1日当たりのごみの排出量	g/人/日	473	491	489	507	514	521	520	500	489g/人/日以下	97.8	○
		ごみリサイクル率（総資源化率）	%	16	19	18	17	16	15	14	15	26.0%以上	56.5	△
		事業系ごみの年間排出量	t/年	—	12,525	12,703	12,902	12,282	12,620	12,202	11,921	11,300 t	94.8	○
		ごみ・リサイクル出前講座実施回数	件/年	—	22	49	16	13	10	17	20	60件	33.3	△
自然環境	II 豊かな自然と共に生きるまち	不法投棄常習箇所数	箇所	—	32	22	24	23	25	25	27	17箇所	63.0	△
		森林面積	ha	—	58,566	58,566	58,566	58,566	58,566	58,566	58,531	現状の面積を維持していく	99.9	○
		市有林整備面積（年間）	ha	—	—	—	—	—	20	13	13	毎年20haの整備を目指していく	40.1	△
		森林保全活動への参加延べ人数	人	—	1,566	870	915	270	70	320	380	800人	47.5	△
		水生生物調査参加団体数 （環境省・国土交通省が主体の水生生物調査への市内団体等の登録数）	団体	16	16	16	11	12	12	11	9	25団体	36.0	△
		水路等の清掃活動への参加延べ人数	人	—	6,148	6,133	6,136	6,134	6,130	2,330	3,456	6,150人	56.2	△
		鳥獣保護区指定箇所数	箇所	—	9	9	9	9	9	9	9	9箇所を維持していく	100.0	○
		狩猟免許取得者数	人	—	17	25	21	32	44	45	31	30人	103.3	○
		猟友会会員数	人	—	184	192	191	204	213	217	217	220人	98.6	○
		特定間伐等の実施の促進に関する基本方針に基づく間伐目標面積の実施率	%	7	34	23	21	13	—	—	—	—		
		奥州万年の新植樹の実施	回/年	1	—	—	—	—	—	—	—	—		
		森林整備実施面積	ha	—	247	242	246	177	—	—	—	—		
生活環境	III いのちとくらしを守るまち	公共用水域の水質の環境基準達成状況	%	80	82	88	90	61	82	65	71	調査河川の全ての調査地点がA類型達成（大腸菌数を除く。）を目指す	70.6	△
		汚水処理人口普及率	%	102	80	80	80	81	82	83	84	94.4% (R8年度目標値)	88.8	△
		地下水の環境基準値達成率	—	—	基準値以内	基準値以内	基準値以内	基準値以内	基準値以内	基準値以内	基準値以内	調査項目が基準値以内	100.0	○
		大気中の二酸化窒素濃度	—	—	基準値以内	基準値以内	基準値以内	基準値以内	全て基準値内	全て基準値内	全て基準値内	調査項目が基準値以内	100.0	○
		締結済の公害防止協定数	件	—	—	—	—	—	352	355	357	維持、増加させていく	100.6	○
		特別栽培米等生産割合	%	—	64	70	63	65	64	40	42	66.3%	62.6	△
		公害防止協定の新規・再締結数	件	—	5	3	6	0	—	—	—	—		
快適環境	IV 暮らしやすい快適環境のまち	指定文化財件数	件	—	296	298	298	298	297	297	296	指定件数を維持していく	99.7	○
		助言・指導などを行った特定空家等に対する問題の解決に至った年間件数の割合	%	—	—	—	—	—	—	38	64	55.0%	116.5	○
		空き家バンクにおける売買または賃貸契約の成立件数	件/年	—	12	12	10	16	31	34	23	15件	153.3	○
		助言・指導などを行った特定空家等に対する問題の解決に至った年間件数	件/年	—	33	40	84	88	38	—	—	—		
地球環境	V 地球環境保全に貢献するまち	おうしゅうエコ事業所制度登録数	事業所	—	74	78	78	77	77	95	95	80事業所	118.8	○
		環境マネジメントシステム認証事業所数	事業所	—	48	48	47	48	46	45	48	増やしていく	106.7	○
		いわて地球環境にやさしい事業所認定数	事業所	—	23	27	28	30	29	32	33	増やしていく	103.1	○
		エコショップいわて認定事業所数	事業所	—	17	17	16	10	23	23	23	増やしていく	100.0	○
		市公用車の低公害車の導入割合	%	—	5	5	5	7	9	10	9	増やしていく	94.9	○
環境学習	VI 地球環境に配慮した人が大きく育つまち	市民の環境学習イベントの参加者理解度	%	—	93	92	97	89	87	98	98	アンケート実施時において、理解度70%以上を目指す	139.4	○
		市民の環境学習イベントの参加者数	人	—	1,429	2,652	1,762	613	883	1,548	1,023	1,460人	70.1	△
		小中高等学校の児童生徒に対する環境学習実施回数	回	—	—	—	—	22	30	34	22	24回	91.7	○
		奥州市環境市民会議事業の参加延べ人数	人	—	585	858	987	336	594	596	353	500人	70.6	△
		環境学習事業実施小中学校の割合	%	—	54	59	36	39	—	—	—	—		

評価（R5年度）について ◎：目標値を達成した計画指標（100%以上）

○：目標値を概ね達成した計画指標（90%以上 100%未満）

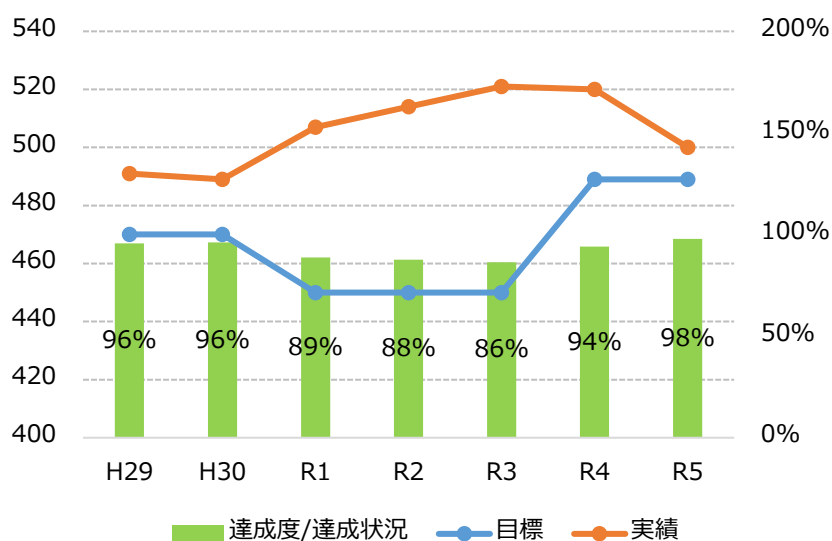
△：目標値を達成できなかった計画指標（90%未満）

1.1 分野別環境像Ⅰ 循環型社会を目指して一人ひとりが取り組むまち

平成 29 年度以降令和 4 年度まで、1 人 1 日あたりのごみの排出量は増加傾向にあり、目標を達成できていない状態である。一方で令和 5 年度には、ごみの排出量は減少に転じている。今後ともごみの排出量の抑制、減量化を推進する必要がある。

① 1 人 1 日あたりのごみの排出量

	実績 (g/人/日)	目標 (g/人/日)	達成率	達成状況
H29	491	470	96%	○
H30	489	470	96%	○
R1	507	450	89%	△
R2	514	450	88%	△
R3	521	450	86%	△
R4	520	489	94%	○
R5	500	489	98%	○



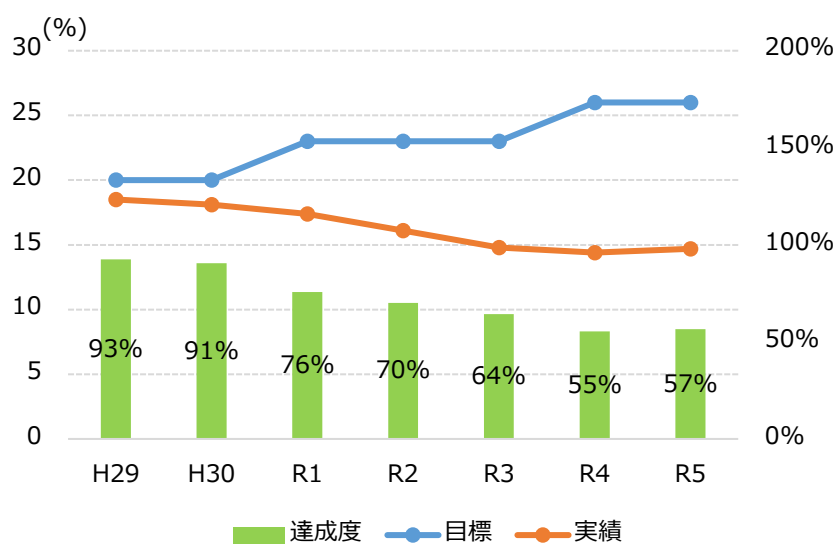
1 人 1 日あたりのごみの排出量

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

②ごみリサイクル率（総資源化率）

ごみのリサイクル率は平成 29 年度以降減少傾向であり、目標を達成できていない状態であり、資源化率の向上を推進する必要がある。

	目標	実績	達成度	達成状況
H29	20	18.5	93%	○
H30	20	18.1	91%	○
R1	23	17.4	76%	△
R2	23	16.1	70%	△
R3	23	14.8	64%	△
R4	26	14.4	55%	△
R5	26	14.7	57%	△



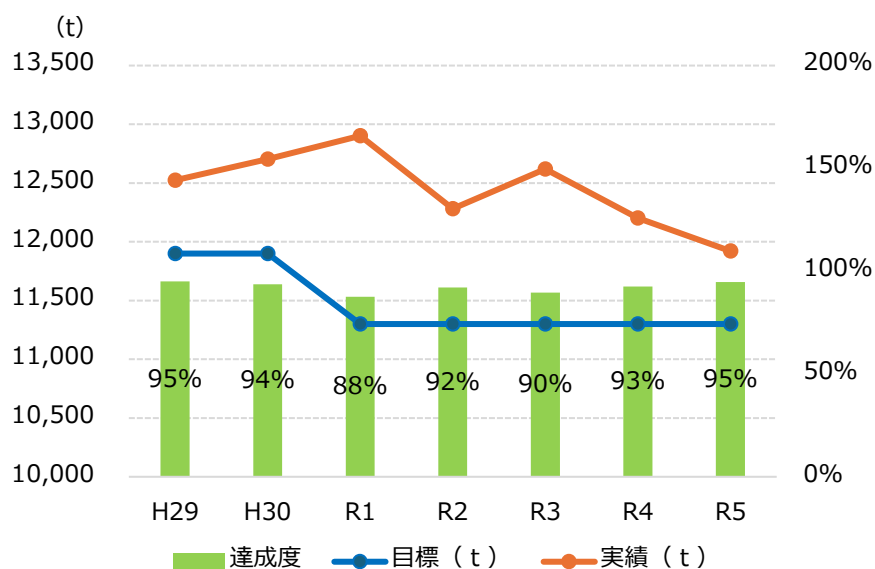
ごみリサイクル率（総資源化率）

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

③事業系ごみの年間排出量

令和元年度以降、減少傾向であるが、目標を達成できていない状況である。

	目標（t）	実績（t）	達成度	達成状況
H29	11,900	12,525	95%	○
H30	11,900	12,703	94%	○
R1	11,300	12,902	88%	△
R2	11,300	12,282	92%	○
R3	11,300	12,620	90%	○
R4	11,300	12,202	93%	○
R5	11,300	11,921	95%	○



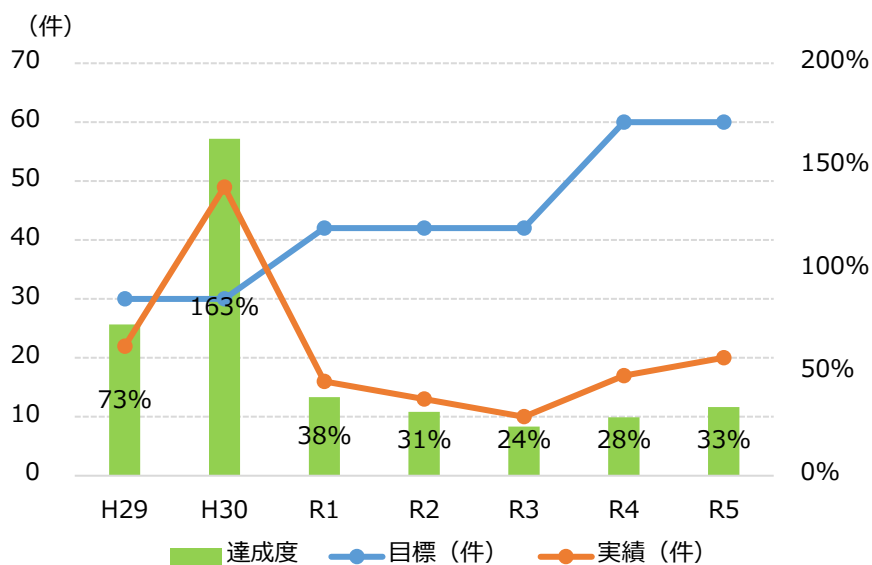
事業系ごみの年間排出量

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

④ごみ・リサイクル出前講座実施回数

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和元年度以降、講座等の実施回数が減少しており、現在に至るまで、以前の水準に戻らない状況が続いている。今後は、講座の実施回数を以前の水準に戻すなど、普及啓発活動を推進する必要がある。

	目標（件）	実績（件）	達成度	達成状況
H29	30	22	73%	△
H30	30	49	163%	◎
R1	42	16	38%	△
R2	42	13	31%	△
R3	42	10	24%	△
R4	60	17	28%	△
R5	60	20	33%	△



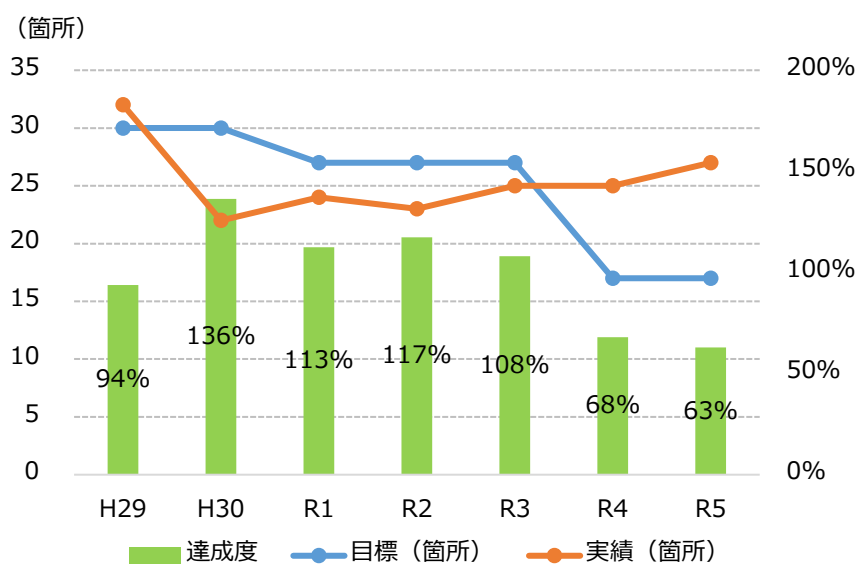
ごみ・リサイクル出前講座実施回数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑤不法投棄常習箇所数

計画期間前期において、目標を達成していたが、平成 30 年度以降、不法投棄常習箇所数自体は増加している。今後、不法投棄の防止により一層努める必要がある。

	目標（箇所）	実績（箇所）	達成度	達成状況
H29	30	32	94%	○
H30	30	22	136%	◎
R1	27	24	113%	◎
R2	27	23	117%	◎
R3	27	25	108%	◎
R4	17	25	68%	△
R5	17	27	63%	△



不法投棄常習箇所数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

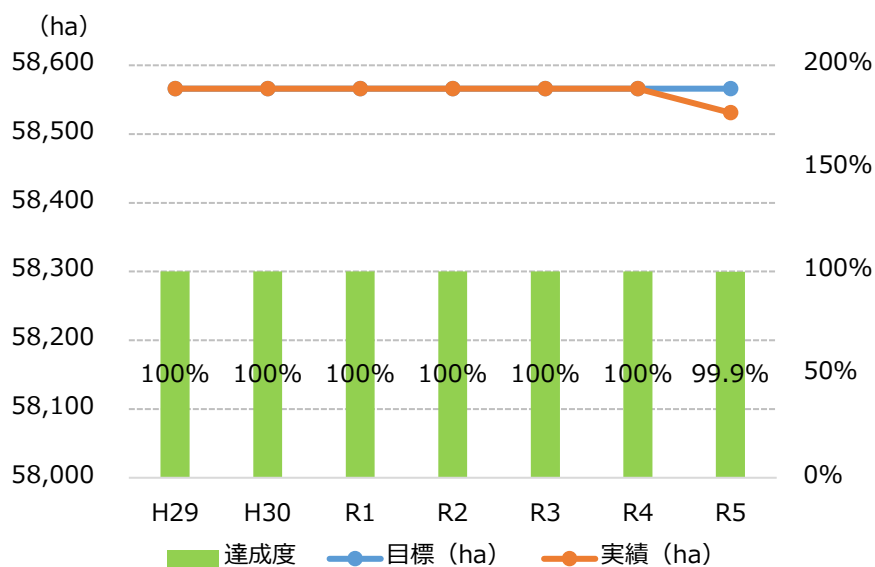
1.2 分野別環境像Ⅱ 豊かな自然と共に生きるまち

①森林面積

平成 29 年度以降、森林面積を維持し、目標を達成できている状況である。令和 5 年度については、県が管理する森林クラウドシステムの更新が行われたことに伴い、森林面積が精査された結果、市の森林面積は前年度から 35ha 減の 58,531ha となったものである。

今後も、計画的な伐採や造林を推進し、森林環境の保全に努める必要がある。

	目標 (ha)	実績 (ha)	達成度	達成状況
H29	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
H30	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
R1	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
R2	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
R3	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
R4	現状の面積を維持していく	58,566	100%	◎
R5	現状の面積を維持していく	58,531	99.9%	◎



森林面積

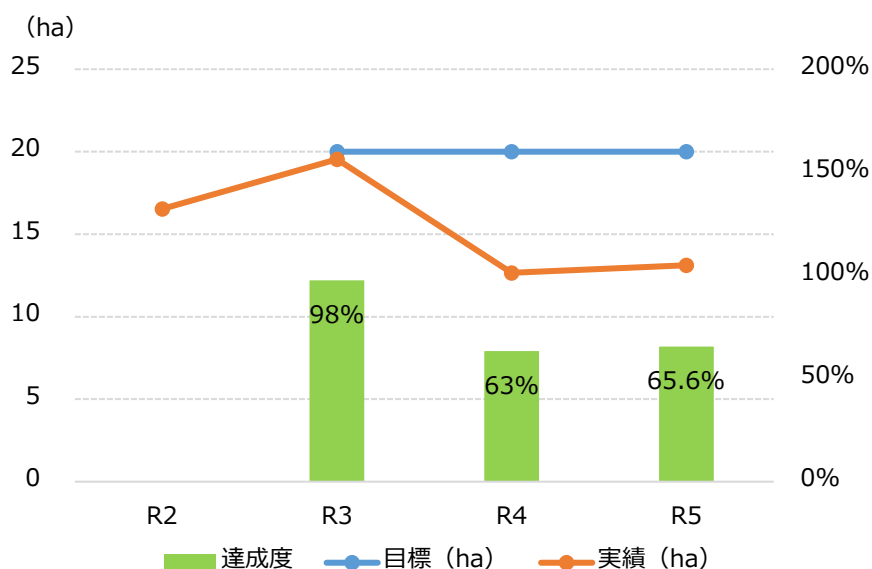
出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

②市有林整備面積（年間）

令和４年度以降、国際情勢による間伐材等の市場への受け入れ制限の影響により、市有林の整備面積は目標を下回り、目標を達成できていない状況である。

今後も市場の状況を注視しながら、目標値の達成に向けて、国や県と協力し、計画的な間伐を含めた森林整備を推進する必要がある。

	目標（ha）	実績（ha）	達成度	達成状況
R2	毎年 20ha の整備を目指していく	16.54	-	
R3	毎年 20ha の整備を目指していく	19.54	98%	○
R4	毎年 20ha の整備を目指していく	12.66	63%	△
R5	毎年 20ha の整備を目指していく	13.11	66%	△



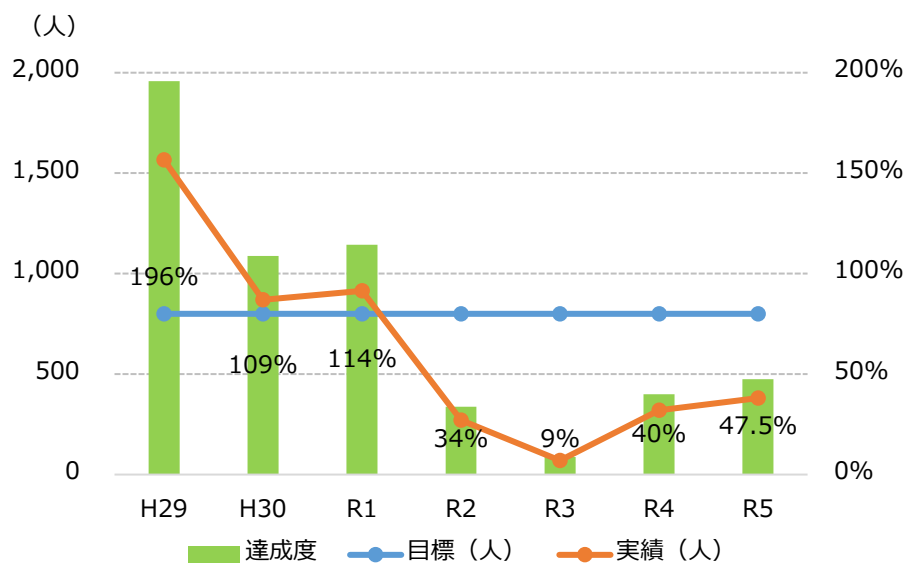
市有林整備面積（年間）

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

③森林保全活動への参加延べ人数

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、活動が制限されたことにより目標を大きく下回り、現在に至るまで、以前の水準に戻らない状況が続いている。今後は、保全活動の周知をさらに強化し、普及啓発活動を推進する必要がある。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	800	1,566	196%	◎
H30	800	870	109%	◎
R1	800	915	114%	◎
R2	800	270	34%	△
R3	800	70	9%	△
R4	800	320	40%	△
R5	800	380	47.5%	△



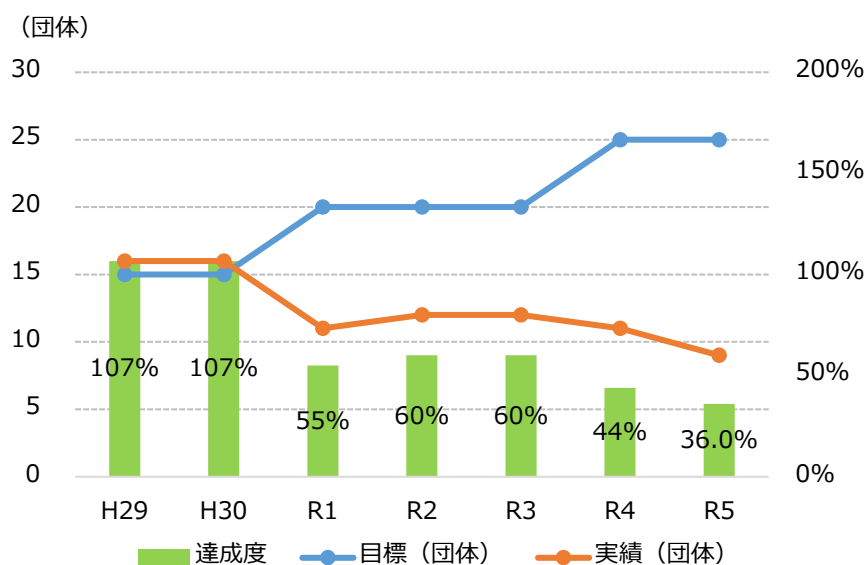
森林保全活動への参加延べ人数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

④水生生物調査参加団体数（環境省・国土交通省が主体の水生生物調査への市内団体等の登録数）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大、小中学校の統合による影響等により目標を大きく下回る状況が続いている。今後は、活動の周知をさらに強化し、普及啓発活動を推進する必要がある。

	目標（団体）	実績（団体）	達成度	達成状況
H29	15	16	107%	◎
H30	15	16	107%	◎
R1	20	11	55%	△
R2	20	12	60%	△
R3	20	12	60%	△
R4	25	11	44%	△
R5	25	9	36.0%	△



水生生物調査参加団体数

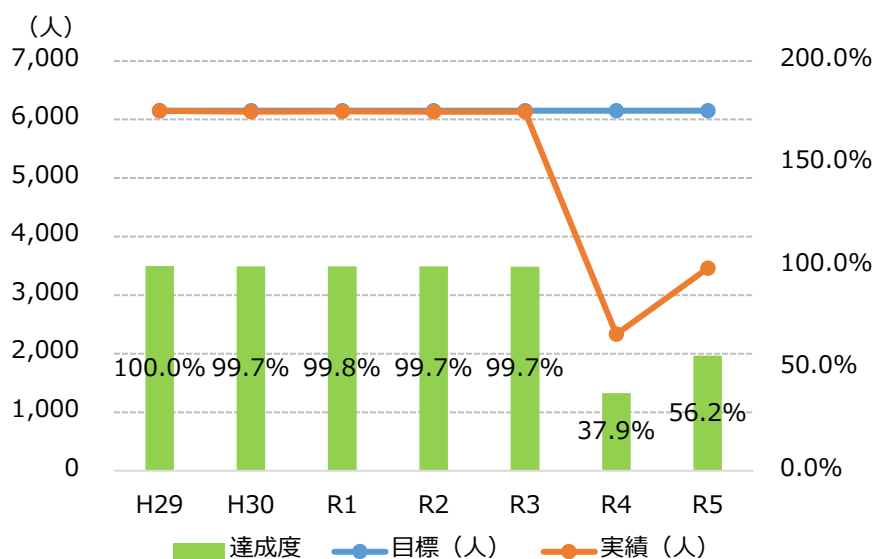
（環境省・国土交通省が主体の水生生物調査への市内団体等の登録数）

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑤水路等の清掃活動への参加延べ人数

令和４年度以降、胆沢平野土地改良区の幹線水路仮払い作業は幹線基盤整備事業実施に伴う担い手不足、組合員の高齢化等の影響により、実績人数が減少し、目標を大きく下回っている状況である。今後、このような活動については、組合員に限らず地域一体となった活動へと見直し、参加しやすいような仕組みづくりにする必要がある。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	6,150	6,148	99.97%	○
H30	6,150	6,133	99.72%	○
R1	6,150	6,136	99.77%	○
R2	6,150	6,134	99.74%	○
R3	6,150	6,130	99.67%	○
R4	6,150	2,330	37.89%	△
R5	6,150	3,456	56.20%	△



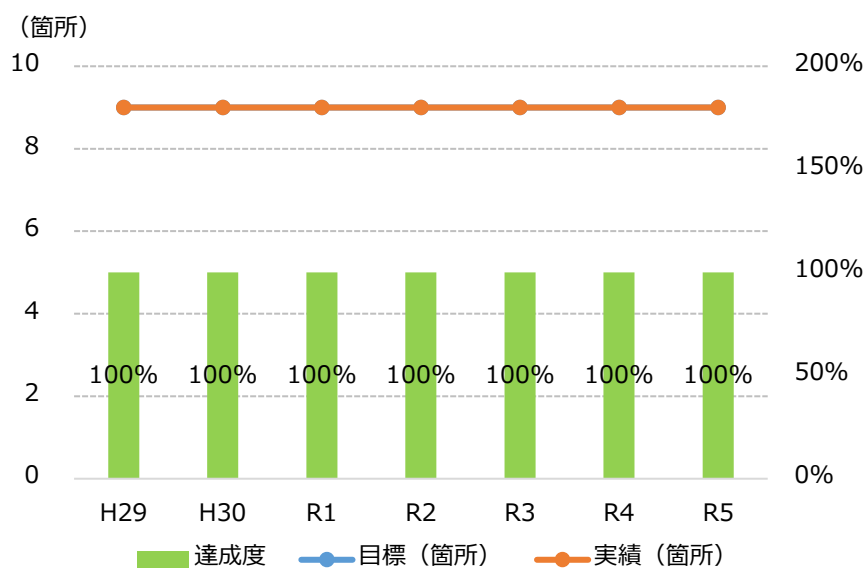
水路等の清掃活動への参加延べ人数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑥鳥獣保護区指定箇所数

平成 29 年度以降、鳥獣保護区指定箇所数は目標を維持している。今後も指定により得られる効果と鳥獣による生活環境や農林水産業被害等への状況を勘案しながら、指定等の判断する必要がある。

	目標（箇所）	実績（箇所）	達成度	達成状況
H29	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
H30	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
R1	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
R2	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
R3	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
R4	9 箇所を維持して行く	9	100%	○
R5	9 箇所を維持して行く	9	100%	○



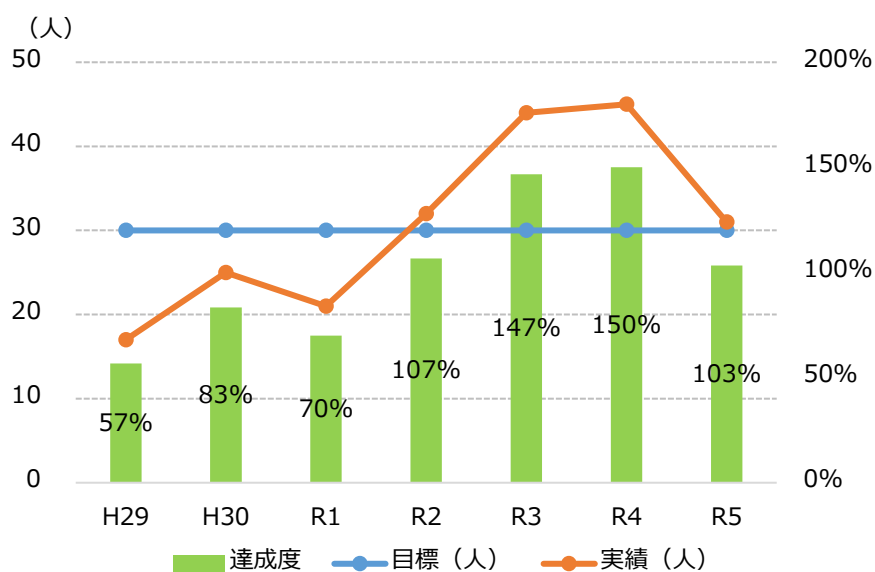
鳥獣保護区指定箇所数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑦狩猟免許取得者数

令和元年度以降、狩猟免許取得者数は目標を上回る状況が続いている。一方で、捕獲の担い手となる狩猟者は高齢化が進んでいる。今後も、狩猟免許の新規取得に要する費用等の助成を継続するなど、新規取得を積極的に促す必要がある。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	30	17	57%	△
H30	30	25	83%	△
R1	30	21	70%	△
R2	30	32	107%	◎
R3	30	44	147%	◎
R4	30	45	150%	◎
R5	30	31	103%	◎



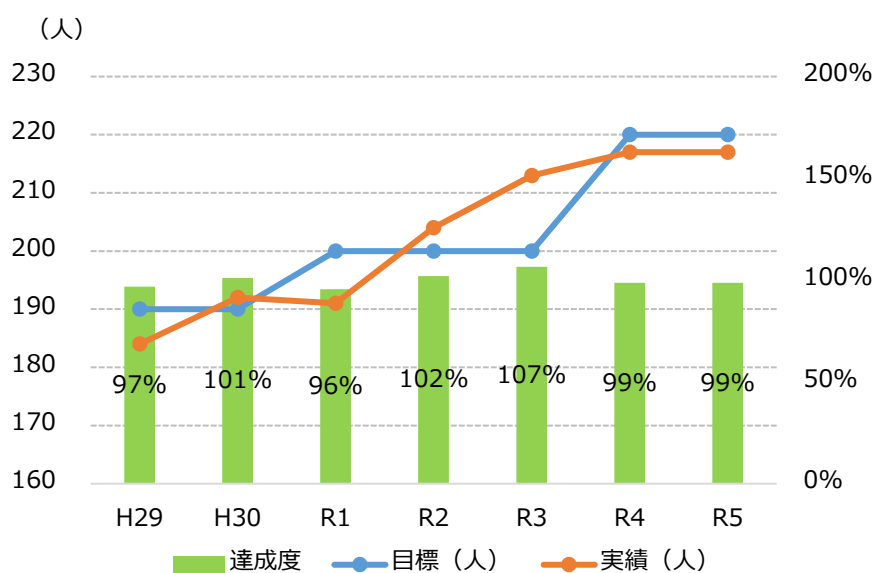
狩猟免許取得者数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑧ 猟友会会員数

平成 29 年度以降、猟友会会員数は増加傾向である一方で、捕獲の担い手となる狩猟者は高齢化が進んでいる。今後も、新規取得を積極的に促す必要がある。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	190	184	97%	○
H30	190	192	101%	◎
R1	200	191	96%	○
R2	200	204	102%	◎
R3	200	213	107%	◎
R4	220	217	99%	○
R5	220	217	99%	○



猟友会会員数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

1.3 分野別環境像Ⅲ いのちとくらしを守るまち

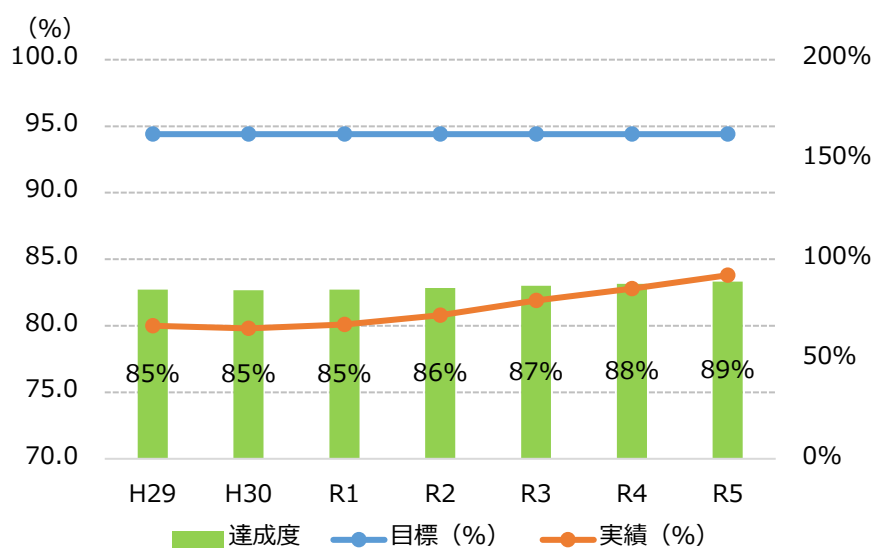
①公共用水域の水質の環境基準達成状況

毎年度グラフ未作成

②汚水処理人口普及率

平成 29 年度以降、目標を達成できていない状況である。今後は、公共下水道の整備及び浄化槽事業を促進する必要がある。

	目標 (%)	実績 (%)	達成度	達成状況
H29	94.4	80.0	85%	△
H30	94.4	79.8	85%	△
R1	94.4	80.1	85%	△
R2	94.4	80.8	86%	△
R3	94.4	81.9	87%	△
R4	94.4	82.8	88%	△
R5	94.4	83.8	89%	△



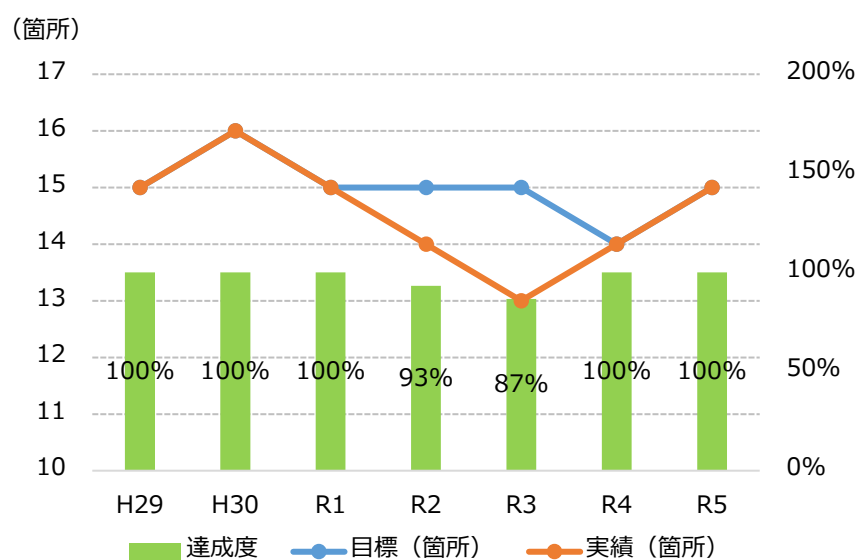
汚水処理人口普及率

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

③地下水の環境基準値達成率

平成 29 年度以降、一部の河川において、基準値を超過する項目があったが、概ね目標を達成できている状況である。

	目標（箇所）	実績（箇所）	達成度	達成状況
H29	15	15	100%	◎
H30	16	16	100%	◎
R1	15	15	100%	◎
R2	15	14	93%	○
R3	15	13	87%	△
R4	14	14	100%	◎
R5	15	15	100%	◎



地下水の環境基準値達成率

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

④大気中の二酸化窒素濃度

平成 29 年度以降、調査項目は全て基準値以内であり、目標を達成できている状況である。

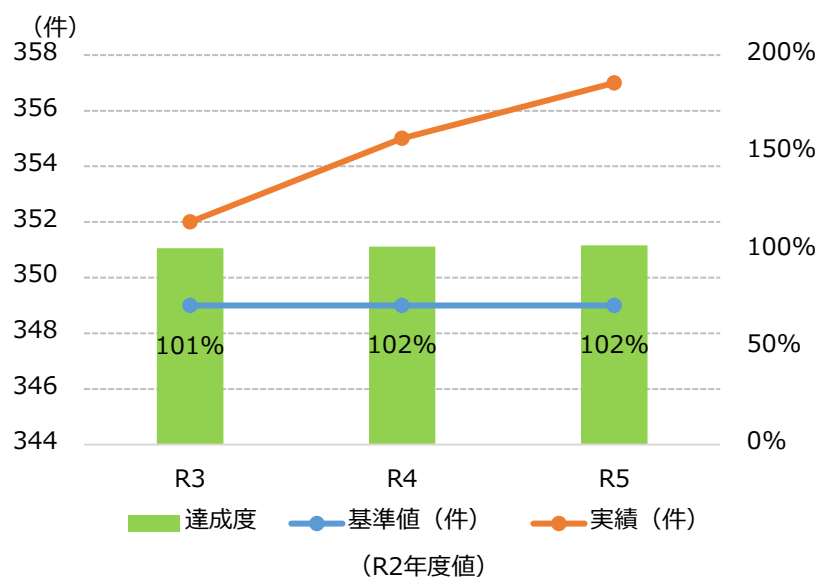
	目標	実績	達成度	達成状況
H29	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
H30	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
R1	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
R2	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
R3	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
R4	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎
R5	調査項目が基準値以内	全て基準値以内	100%	◎

毎年度グラフ未作成

⑤締結済の公害防止協定数

令和 3 年度以降、新たに公害防止協定を 5 件結んでおり、目標を達成できている状況である。今後も関係部署と連携し、誘致企業などとの協定締結を推進する必要がある。

	基準値（件） (R2 年度値)	実績（件）	達成度	達成状況
R3	349	352	101%	◎
R4	349	355	102%	◎
R5	349	357	102%	◎



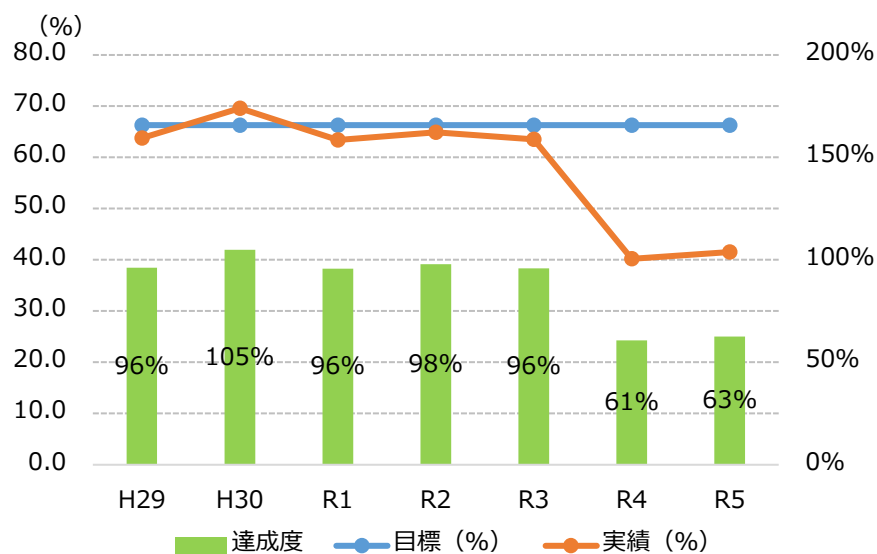
締結済の公害防止協定数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑥特別栽培米等生産割合

令和４年度以降、岩手ふるさと農協において特別栽培米としていた「限定ふるさと米」とそれ以外の慣行栽培米が、令和３年度産から「ふるさと純情米」に名称が統合され、令和４年度産から慣行栽培米として取り扱いを統一されたため、実績が大きく低下している。今後は岩手江刺農協における特別栽培米の取組推進により、特別栽培米生産割合が増加する可能性がある。

	目標 (%)	実績 (%)	達成度	達成状況
H29	66.3	63.8	96%	○
H30	66.3	69.6	105%	◎
R1	66.3	63.4	96%	○
R2	66.3	64.9	98%	○
R3	66.3	63.5	96%	○
R4	66.3	40.2	61%	△
R5	66.3	41.5	63%	△



特別栽培米等生産割合

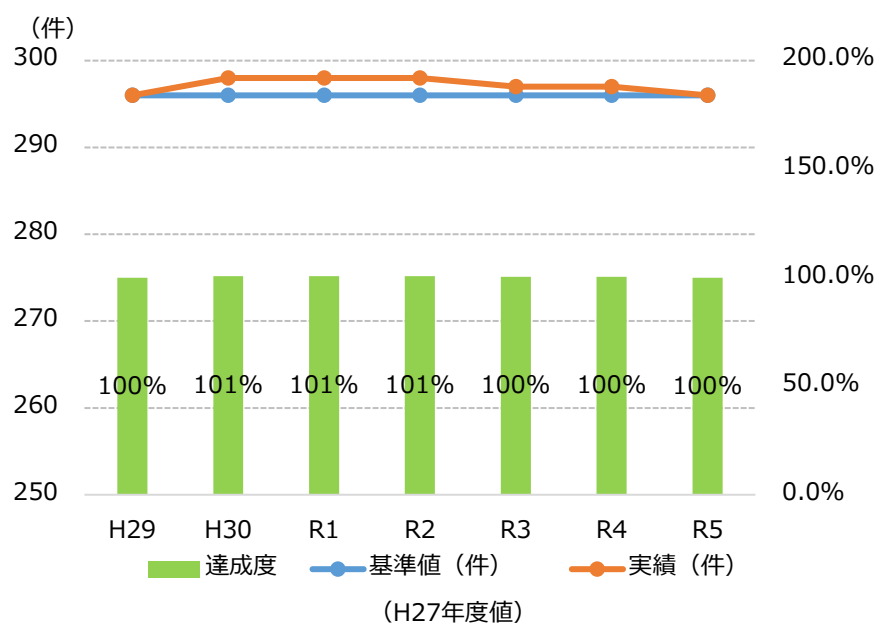
出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

1.4 分野別環境像Ⅳ 暮らしやすい快適環境のまち

①指定文化財件数

令和３年度に市指定文化財の解除のため、１件減となったが目標は達成できている状況である。現在、市文化財指定候補リストに登録している候補案件はありませんが、彫刻、建造物の調査を継続して実施する必要がある。

	基準値（件） （H27 年度値）	実績（件）	達成度	達成状況
H29	296	296	100.0%	◎
H30	296	298	100.7%	◎
R1	296	298	100.7%	◎
R2	296	298	100.7%	◎
R3	296	297	100.3%	◎
R4	296	297	100.3%	◎
R5	296	296	100.0%	◎



指定文化財件数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

②助言・指導などを行った特定空家等に対する問題の解決に至った年間件数/割合

市民等から寄せられた苦情相談等 257 件に対し、所有者等へ適正管理等の依頼により、問題解決に至った件数は目標を大きく上回っている。今後とも、特定空家等を生じさせないよう引き続き所有者等の適正管理を依頼・支援するとともに、特定空家等に認定された空き家については、問題の改善・解決が図られるよう努める必要がある。なお、令和 4 年 3 月に奥州市空家等対策計画が改定されたことに伴い、目標値が変更になっている。

件数（～R3）

	目標（件）	実績（件）	達成度	達成状況
H29	10	33	330.0%	◎
H30	10	40	400.0%	◎
R1	20	84	420.0%	◎
R2	20	88	440.0%	◎
R3	20	38	190.0%	◎

毎年度グラフ未作成

割合（R4～）

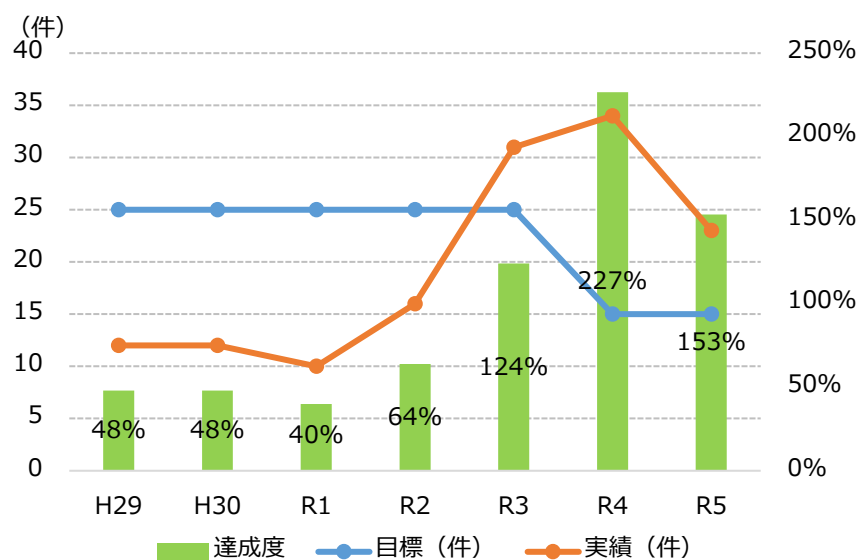
	目標（%）	実績（%）	達成度	達成状況
R4	55	37.8	68.7%	△
R5	55	64.1	116.5%	◎

毎年度グラフ未作成

③空き家バンクにおける売買または賃貸契約の成立件数

令和２年度まで目標を下回る状況が続いていたが、令和３年度以降空き家バンクにおける売買または賃貸契約は上昇傾向にある。今後も引き続き、市が空家等情報を協定団体に提供することにより、建物や土地の利活用や市場流通など専門的知見を活用した民間主導の空家等対策、空き家等情報の外部提供制度に取り組み、空き家バンク制度の利用促進と併せて総合的に空き家対策に努める必要がある。

	目標（件）	実績（件）	達成度	達成状況
H29	25	12	48%	△
H30	25	12	48%	△
R1	25	10	40%	△
R2	25	16	64%	△
R3	25	31	124%	◎
R4	15	34	227%	◎
R5	15	23	153%	◎



空き家バンクにおける売買または賃貸契約の成立件数

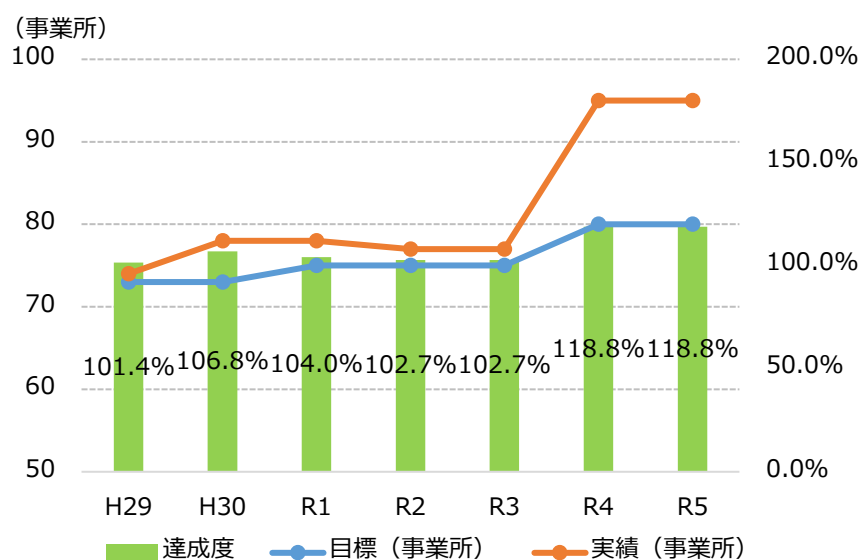
出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

1.5 分野別環境像Ⅴ 地球環境保全に貢献するまち

①おうしゅうエコ事業所制度登録数

平成 29 年度以降目標を達成できている状況である。特に令和 4 年以降は実績値が大きく向上し、環境保全に関する取組に意欲的な事業者が増加していると考えられる。地域経済循環を目指すうえで、市内事業所の協力は必要不可欠である。今後も登録の呼びかけを実施し、環境保全の取組をさらに推進する必要がある。

	目標（事業所）	実績（事業所）	達成度	達成状況
H29	73	74	101.4%	◎
H30	73	78	106.8%	◎
R1	75	78	104.0%	◎
R2	75	77	102.7%	◎
R3	75	77	102.7%	◎
R4	80	95	118.8%	◎
R5	80	95	118.8%	◎



おうしゅうエコ事業所制度登録数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

②環境マネジメントシステム（ISO14001、EA21、KES、グリーン経営）認証事業所数

平成 29 年度以降、環境マネジメントシステム認証事業所数は概ね現状を維持している。

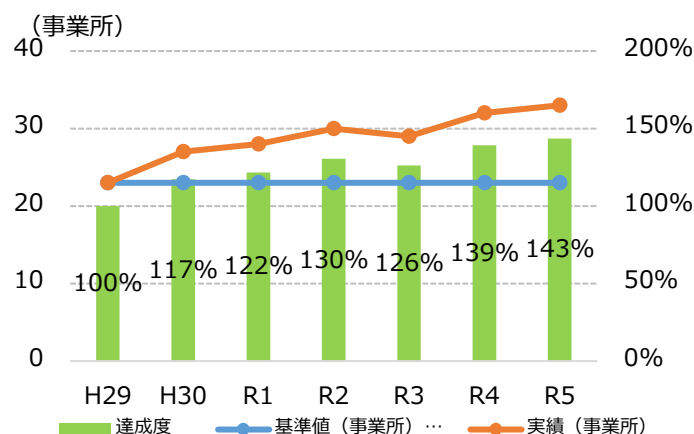
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
環境マネジメントシステム認証事業所数	48	48	47	48	46	45	48
(ISO14001)	(21)	(21)	(21)	(21)	(20)	(20)	(22)
(EA21)	(13)	(13)	(13)	(13)	(12)	(11)	(12)
(KES)	(3)	(4)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)
(グリーン経営)	(11)	(10)	(10)	(11)	(11)	(11)	(11)

毎年度グラフ未作成

③いわて地球環境にやさしい事業所認定数

平成 29 年度以降、いわて地球環境にやさしい事業所認定数は新たに 10 件の事業所が認定を受けており、目標を上回っている状況である。

	基準値（事業所） （H27 年度値）	実績（事業所）	達成度	達成状況
H29	23	23	100%	◎
H30	23	27	117%	◎
R1	23	28	122%	◎
R2	23	30	130%	◎
R3	23	29	126%	◎
R4	23	32	139%	◎
R5	23	33	143%	◎



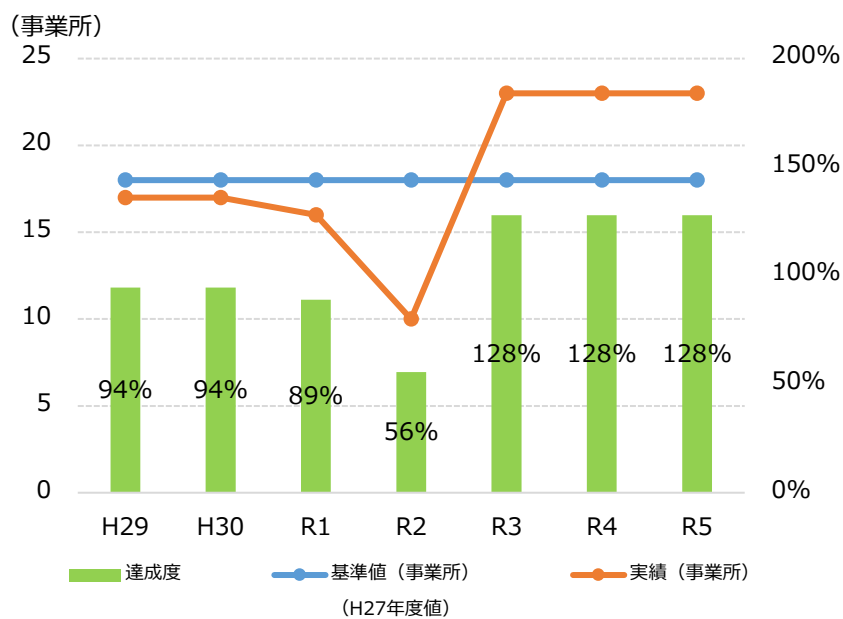
いわて地球環境にやさしい事業所認定数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

④エコショップいわて認定事業所数

令和３年度以降、コンビニエンスストアチェーン店 14 店舗が登録されたことから、目標を上回っている状況である。

	基準値（事業所） （H27 年度値）	実績（事業所）	達成度	達成状況
H29	18	17	94%	○
H30	18	17	94%	○
R1	18	16	89%	△
R2	18	10	56%	△
R3	18	23	128%	◎
R4	18	23	128%	◎
R5	18	23	128%	◎



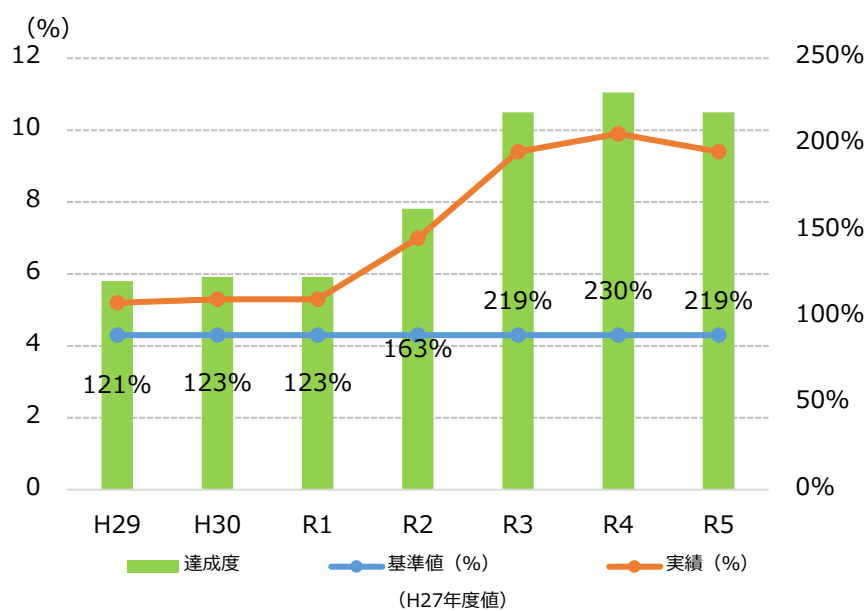
エコショップいわて認定事業所数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

⑤市公用車の低公害車の導入割合

平成 29 年度以降、目標を達成できている状況であるが、公用車台数の減少により、低公害の台数も令和 5 年度において微減した。今後、脱炭素化の推進のため、EV、PHV 等の次世代自動車を積極的に導入する必要がある。

	基準値 (%) (H27 年度値)	実績 (%)	達成度	達成状況
H29	4.3	5.2	121%	◎
H30	4.3	5.3	123%	◎
R1	4.3	5.3	123%	◎
R2	4.3	7	163%	◎
R3	4.3	9.4	219%	◎
R4	4.3	9.9	230%	◎
R5	4.3	9.4	219%	◎



市公用車の低公害車の導入割合

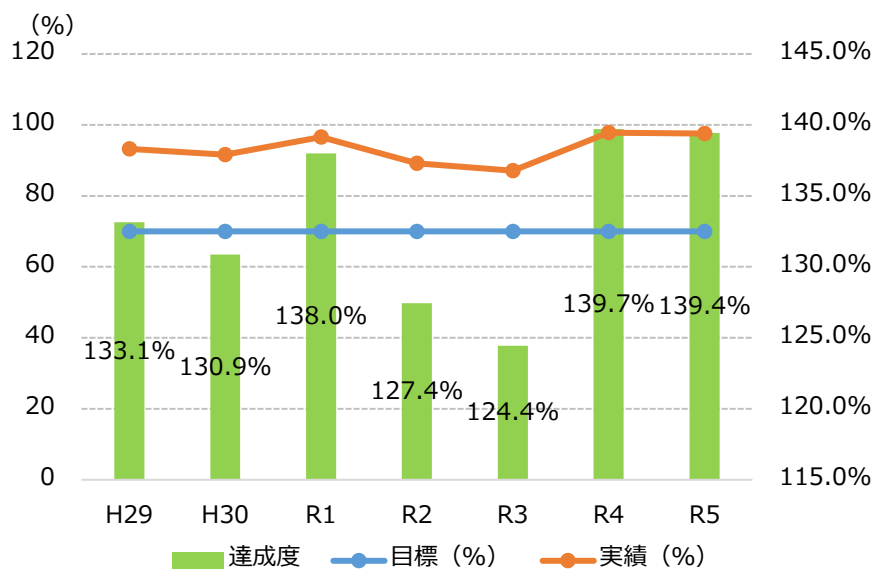
出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

1.6 分野別環境像VI 地球環境に配慮した人が大きく育つまち

①市民の環境学習イベントの参加者理解度

平成 29 年度以降、目標を達成できている状況である。市民のニーズを的確に把握し、分かりやすい講座、イベントの実施により理解度は高い水準で維持できていると考えられる。今後も継続して、今後もわかりやすい講座やイベントの実施に努める必要がある。

	目標 (%)	実績 (%)	達成度	達成状況
H29	70	93.2	133.1%	◎
H30	70	91.6	130.9%	◎
R1	70	96.6	138.0%	◎
R2	70	89.2	127.4%	◎
R3	70	87.1	124.4%	◎
R4	70	97.8	139.7%	◎
R5	70	97.6	139.4%	◎



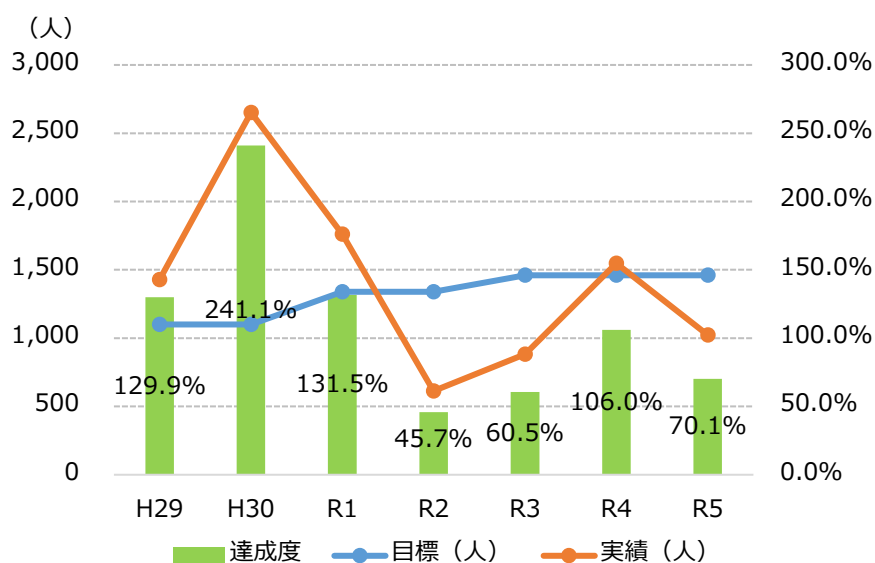
市民の環境学習イベントの参加者理解度

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

②市民の環境学習イベントの参加者数

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベントが中止される等、令和２年度、令和３年度については、目標を大きく下回った。収束してからは、徐々に参加者数は徐々に回復傾向にある。今後も、ごみ・リサイクル出前講座受講のこまめな周知の実施や、奥州めぐみネット等の協力により、環境学習イベントの機会を増やす必要がある。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	1,100	1,429	129.9%	◎
H30	1,100	2,652	241.1%	◎
R1	1,340	1,762	131.5%	◎
R2	1,340	613	45.7%	△
R3	1,460	883	60.5%	△
R4	1,460	1,548	106.0%	◎
R5	1,460	1,023	70.1%	△



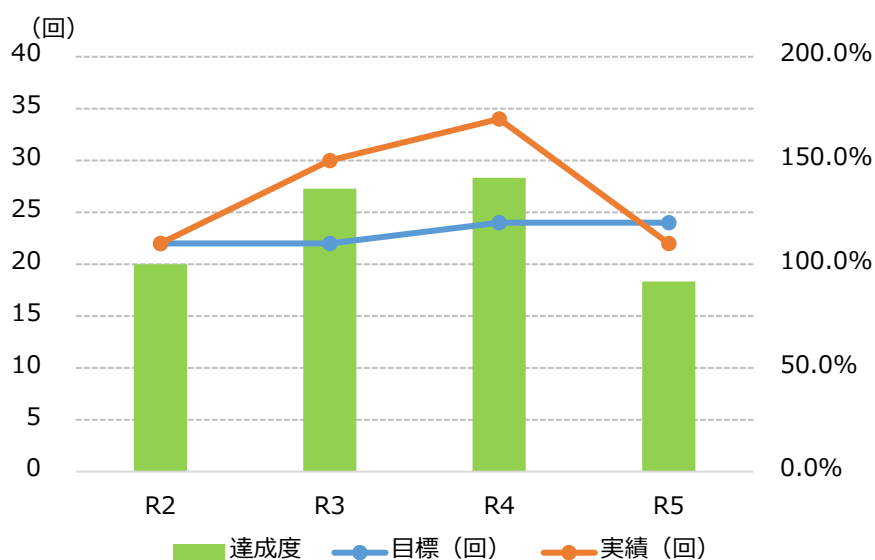
市民の環境学習イベントの参加者数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

③小中高等学校の児童生徒に対する環境学習実施回数

令和４年度まで上昇傾向であったが、令和５年度には実施回数が減少した。今後も、教育委員会と連携した小中学校への参加呼掛けのほか、高等学校との連携強化により、実施回数を増やす必要がある。

	目標（回）	実績（回）	達成度	達成状況
R2	22	22	100.0%	◎
R3	22	30	136.4%	◎
R4	24	34	141.7%	◎
R5	24	22	91.7%	○



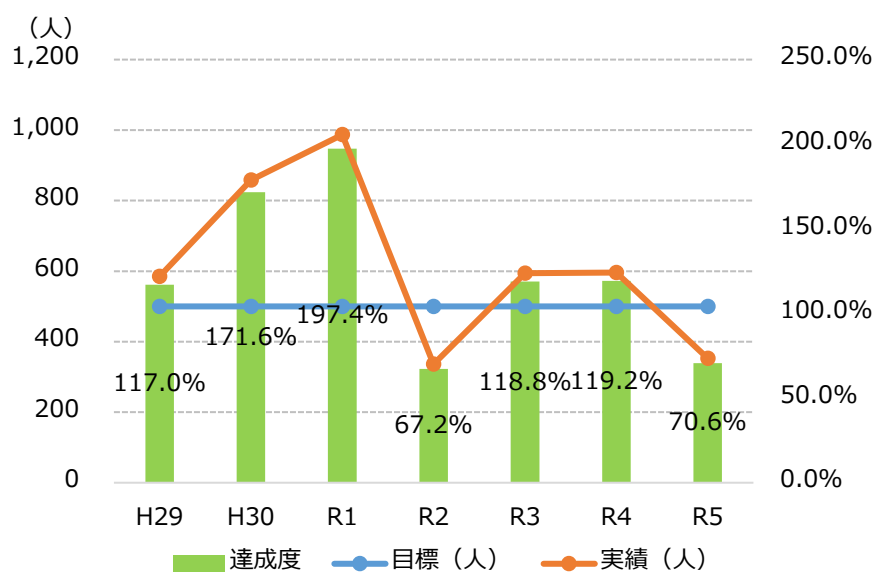
小中高等学校の児童生徒に対する環境学習実施回数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6 年度）

④奥州市環境市民会議事業の参加延べ人数

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、会議等が中止となり、令和2年度は目標を大きく下回った。感染が収束して以降、参加人数は回復傾向を示すものの、令和5年度は会議等の開催数が少なかったため、参加人数が減少した。

	目標（人）	実績（人）	達成度	達成状況
H29	500	585	117.0%	◎
H30	500	858	171.6%	◎
R1	500	987	197.4%	◎
R2	500	336	67.2%	△
R3	500	594	118.8%	◎
R4	500	596	119.2%	◎
R5	500	353	70.6%	△



奥州市環境市民会議事業の参加延べ人数

出典：奥州市環境報告書（H30～R6年度）

2. 奥州市の概況について

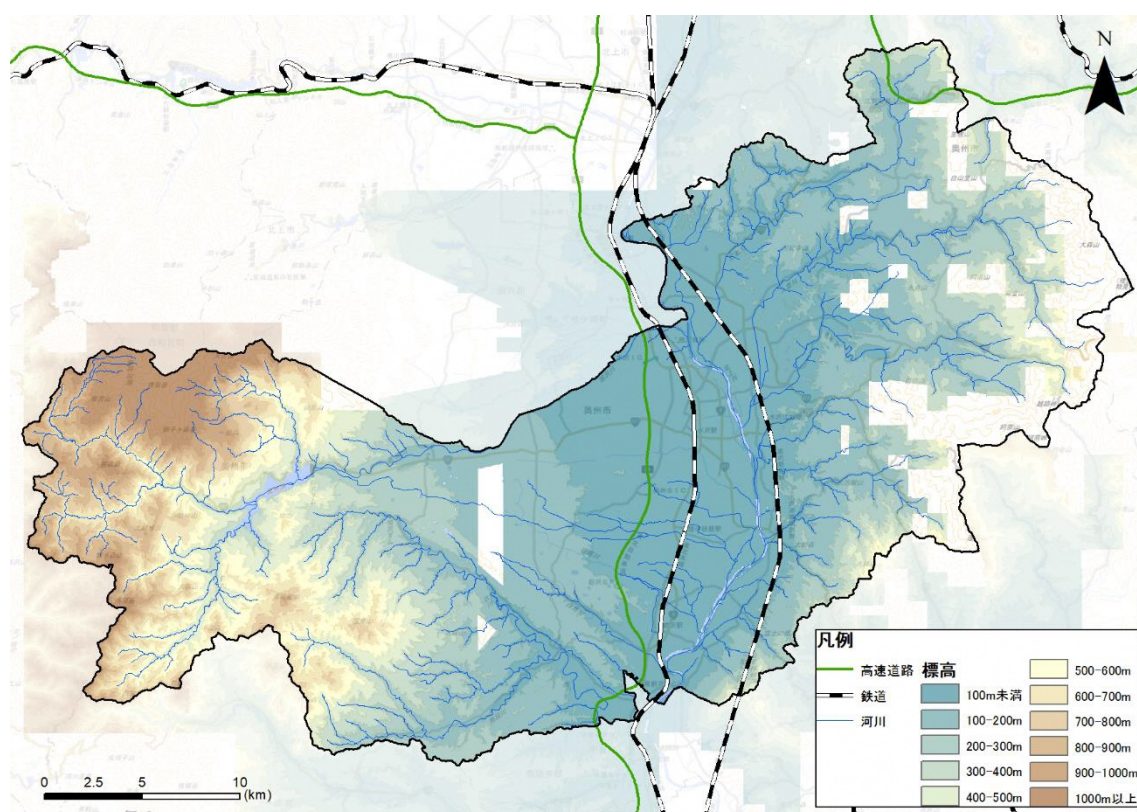
2.1 自然環境

(1) 地形、河川

奥州市は、岩手県の南部に位置し、豊かな自然環境と多様な地形が特徴である。市の北部は、奥羽山脈の一部である岩手山や早池峰山などの山々が連なり、これらの山々は豊富な自然資源を提供し、森林や生態系の多様性を支えている。南部には比較的平坦な土地が広がっており、特に農業が盛んで、稲作や果樹栽培が行われている。このような地形は、地域経済に大きな影響を与える要因となっている。

奥州市を流れる主要な河川には、北上川とその支流がある。北上川は、市の中央を流れ、周辺の平野を形成している。この川は岩手県内で最も大きな河川であり、その流域は豊富な水資源を提供している。北上川の支流には胆沢川や人首川などがあり、これらの川は地域の水源として重要な役割を果たし、農業や生活用水、さらには発電などにも利用されている。

このように、奥州市は山地と平野が共存する多様な地形を持ち、北上川を中心にした豊富な河川資源が地域の生活や経済を支えている。自然環境の豊かさは、観光や農業、地域の文化を育む基盤となっており、これらの要素が奥州市の魅力を形成している。

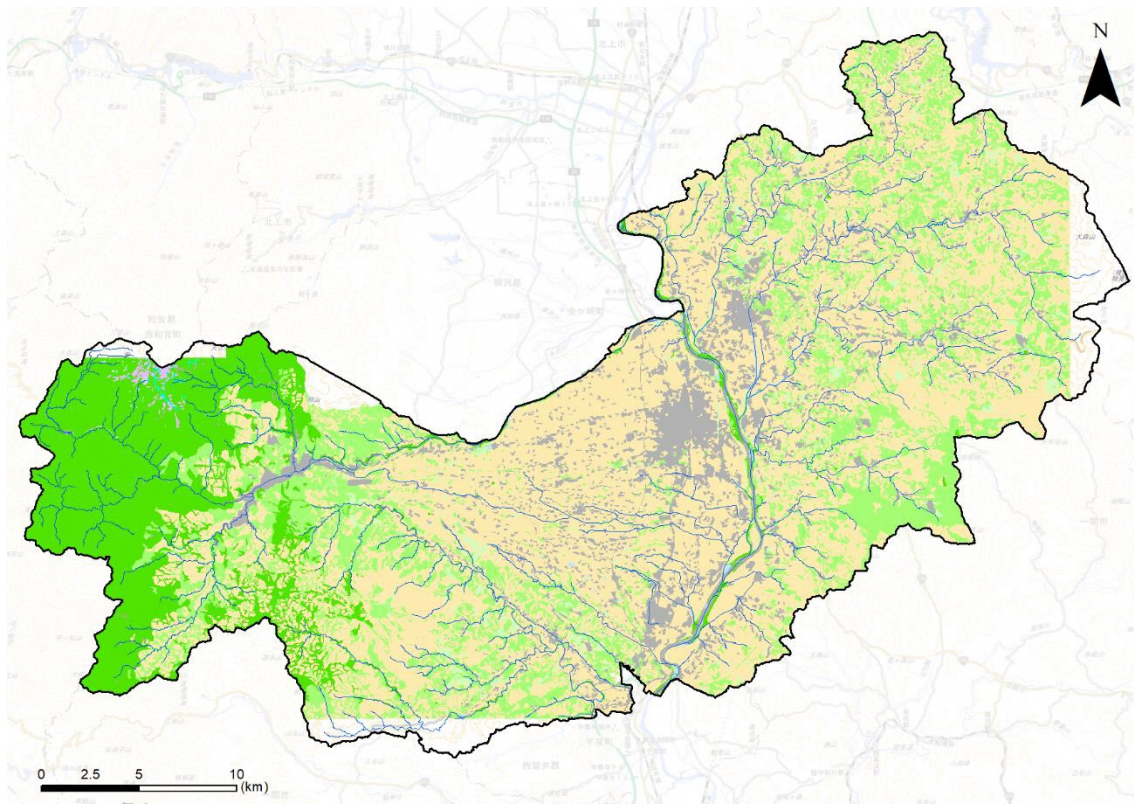


奥州市の地域概要図

出典：国土数値情報（行政区域、高速道路、鉄道、河川）、基盤地図情報（標高）

(2) 植生

標高が低い北上川沿いや胆沢扇状地には市街地、耕作地、植林地等が広がり、農業が盛んに行われている。市東部に位置する北上高地地域では主に落葉広葉樹の二次林が広がっている。市西部に位置する奥羽山脈地域では主に落葉広葉樹の自然林、低木林が広がっている。1000m以上の亜高山帯には常緑針葉樹の低木林、草原が広がっている。



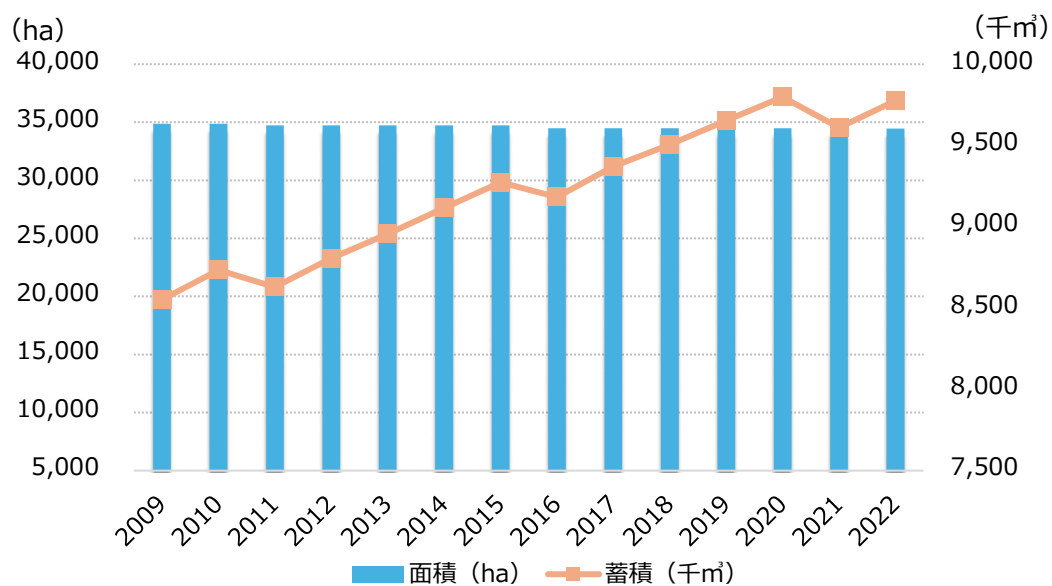
植生図

出典：生物多様性センター 1/2.5万植生図

- | | | |
|-----------------|----------------|---------------|
| ■ : ブナクラス域自然植生 | ■ : ブナクラス域代償植生 | ■ : 高山帯自然植生域 |
| ■ : トウヒクラス域自然植生 | ■ : 河辺・湿原 | ■ : 植林地・耕作地植生 |
| ■ : 市街地等 | | |

(3) 民有林の面積

奥州市の民有林の面積は 2022 年度まで概ね横ばい傾向で推移している。森林の蓄積量は増加傾向にあり、森林の高齢化が進んでいる。

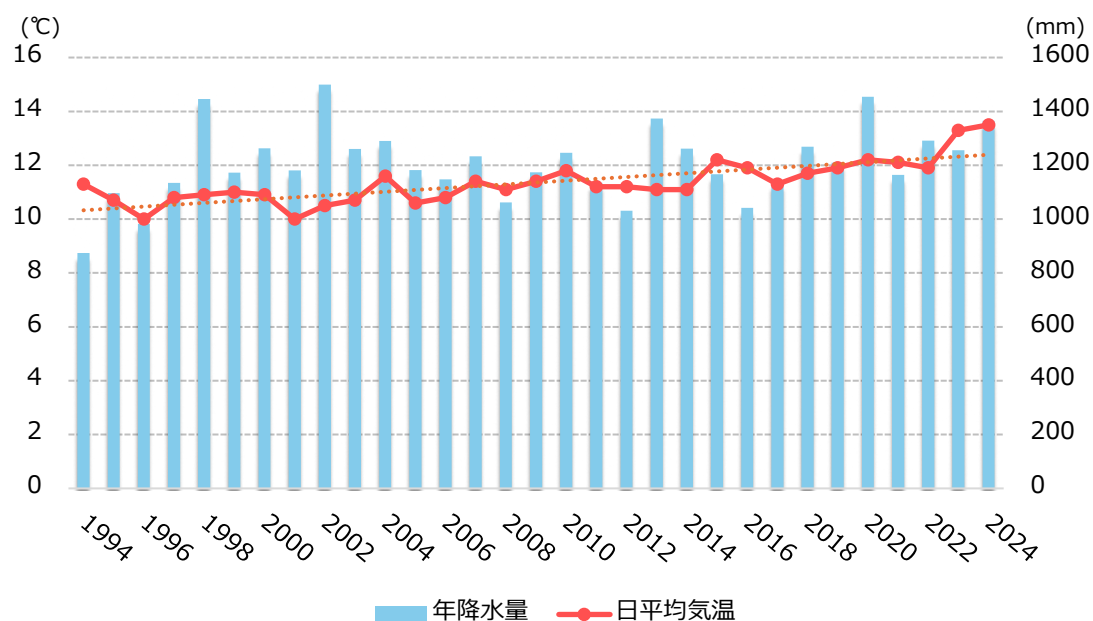


森林（民有林）の面積及び蓄積の推移

出典：岩手県林業の指標（平成 22 年度版～令和 5 年度版）

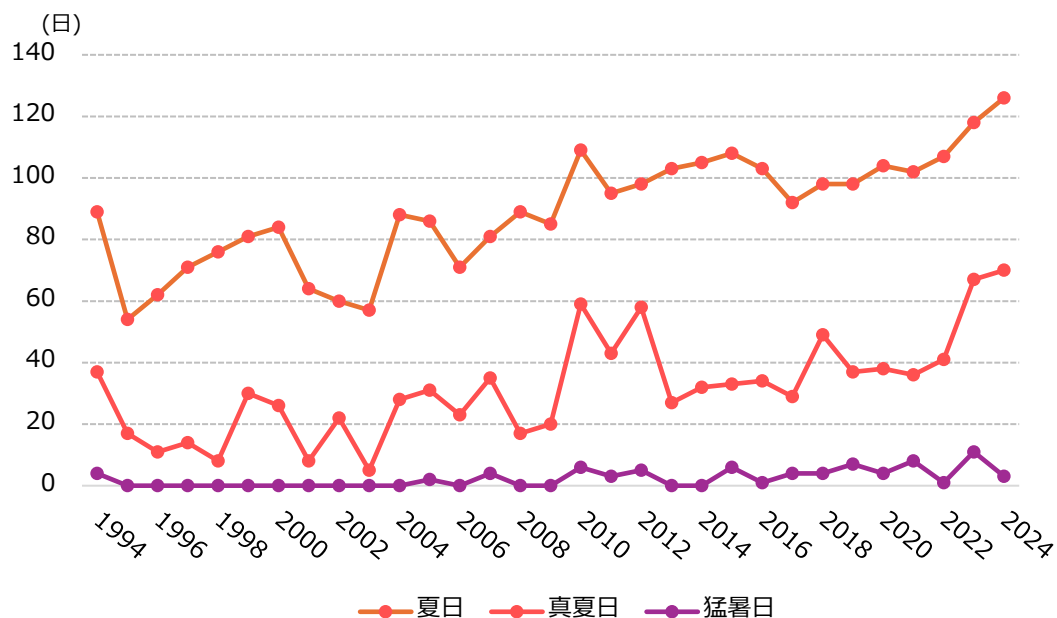
2.2 気候・気象

本市における日平均気温については、近年上昇傾向にある。また、夏日、真夏日、猛暑日の日数についても、増加傾向であり、2024 年度には夏日、真夏日の日数がそれぞれ 126 日、70 日と過去最多となった。



年降水量と日平均気温の推移

出典：気象庁 過去の気象データ検索



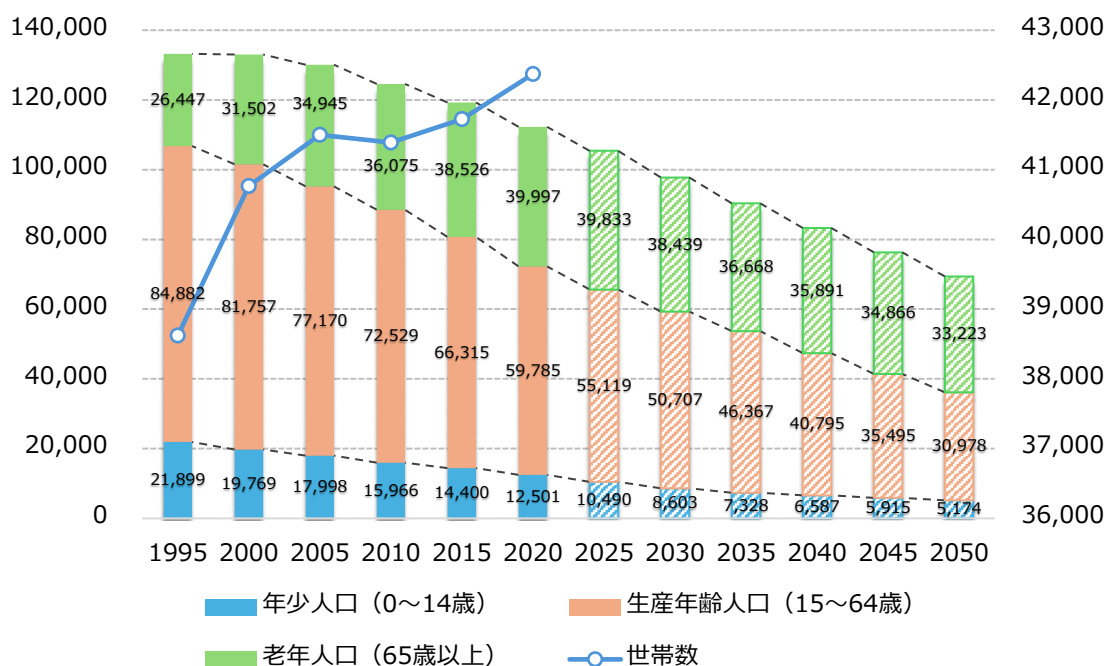
夏日、真夏日、猛暑日の日数の推移

出典：気象庁 過去の気象データ検索

2.3 社会情勢

(1) 人口

奥州市の人口は、平成 10 年の 134,410 人をピークに減少傾向である。年代別の人口の推移をみると、0～14 歳の年少人口、15～64 歳の生産年齢人口はともに 1995 年以降減少傾向である。65 歳以上の老年人口については、2020 年まで増加傾向にあるが、これ以降減少傾向に転じると予測されている。今後は人口減少及び少子高齢化が進み、2050 年の総人口は 2020 年の総人口の約 62%になることが予測されている。

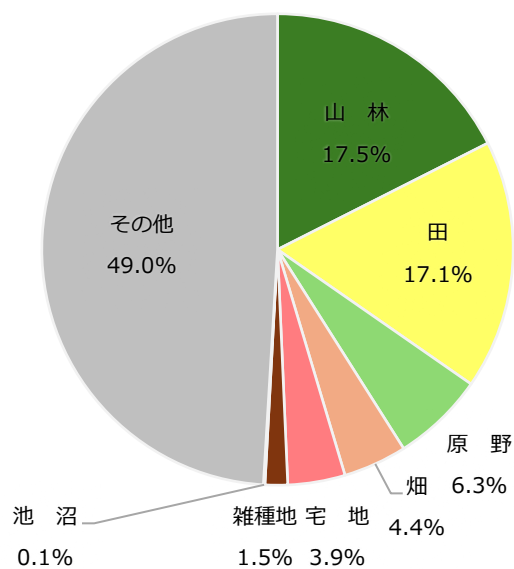


人口・世帯数の推移

出典：奥州市統計書（令和 6 年度）（1995～2020 年まで）、
 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来
 推計人口（令和 5（2023）年推計）（2025～2050 年）

(2) 土地利用

奥州市の地目別土地面積の割合は、山林の割合が 17.5%と最も多く占めており、田 17.1%、原野 6.3%、畑 4.4%、宅地 3.9%、雑種地 1.5%、池沼 0.1%と続きます。

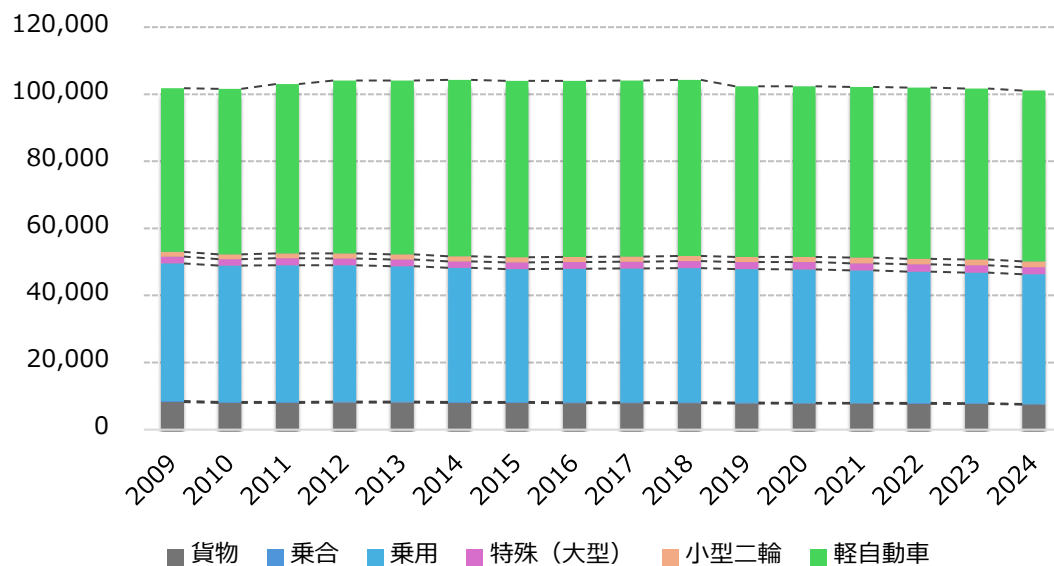


地目別土地利用の状況

出典：奥州市統計書（令和 6 年度）

(3) 自動車登録台数

自動車の登録台数は 2018 年度をピークに減少傾向にある。



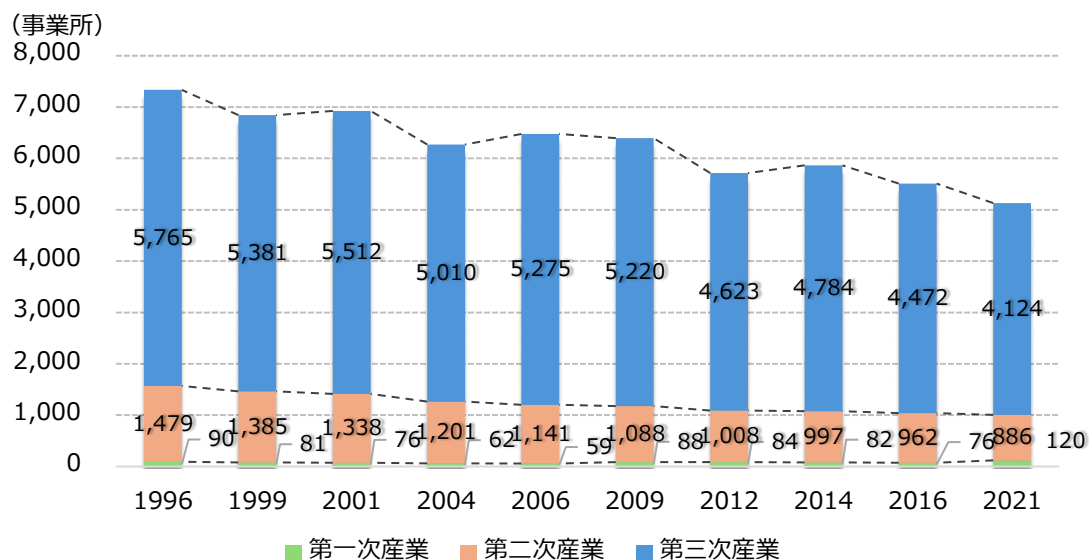
自動車登録台数の推移

出典：奥州市統計書（平成 25 年度版～令和 6 年度版）

2.4 経済状況

(1) 産業大部類別事業所数

奥州における産業大分類別事業所数は全 3 部門において減少傾向にある。

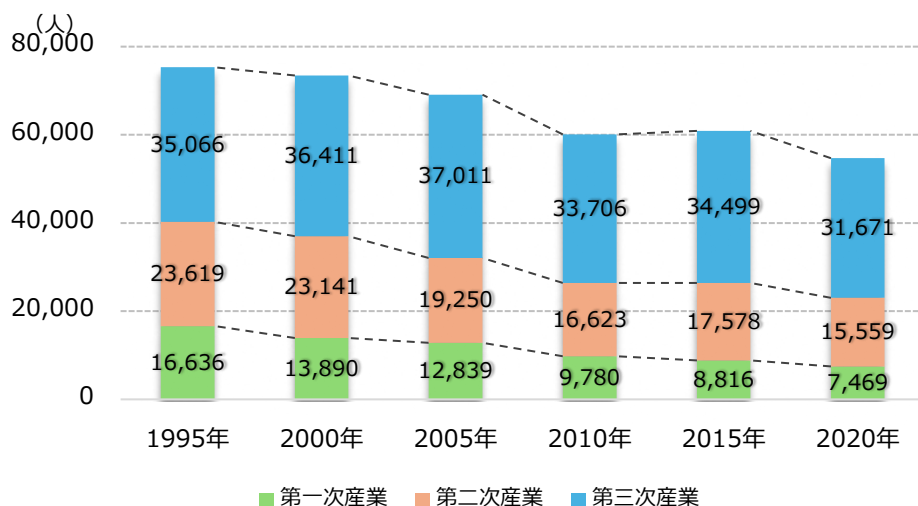


産業大分類別事業所数

出典：経済センサス

(2) 産業大分類別従業者数

奥州市における産業大分類の従業者数は全 3 部門において減少傾向にある。特に第一次産業における従業者数は 1995 年と比較して、50%以下まで減少しており、今後も担い手不足が懸念される。



産業大分類別従業者数

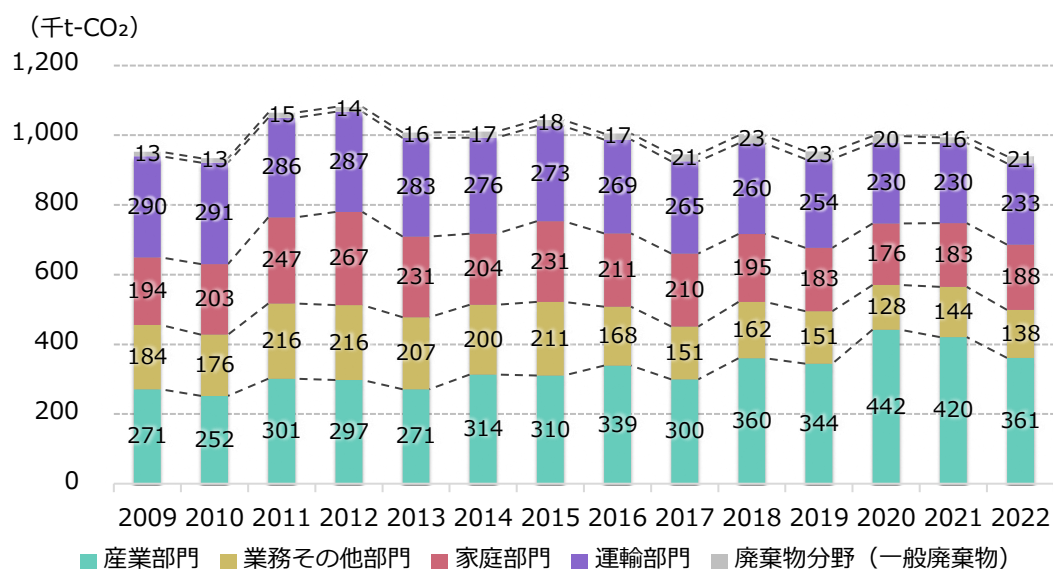
出典：国勢調査

2.5 温室効果ガスの排出量

奥州市における CO₂ 排出量は、現況年度（2022 年度）において、940,000t-CO₂ であり、基準年度と比較して、6.7%の削減となっている。部門ごとでは、業務その他部門、家庭部門、運輸部門において、基準年度よりも CO₂ 排出量が減少している。一方で、産業部門、一般廃棄物部門においては、基準年度よりも CO₂ 排出量が増加している。特に製造業においては、基準年度よりも 41.5%増加している。これは、製造品出荷額の増加分によるものと考えられる。

CO₂ 排出量の現況

部門・分野		基準年度 (2013 年度) (千 t-CO ₂)	現況年度 (2022 年度) (千 t-CO ₂)	基準年度比 (%)
産業部門	製造業	217	307	41.5
	建設業・鉱業	15	13	▲13.3
	農林水産業	40	41	2.5
業務その他部門		207	138	▲33.3
家庭部門		231	188	▲18.6
運輸部門	自動車（旅客）	136	108	▲20.6
	自動車（貨物）	138	119	▲13.8
	鉄道	10	7	▲30.0
廃棄物分野	一般廃棄物	16	21	31.3
合計		1,008	940	▲6.7



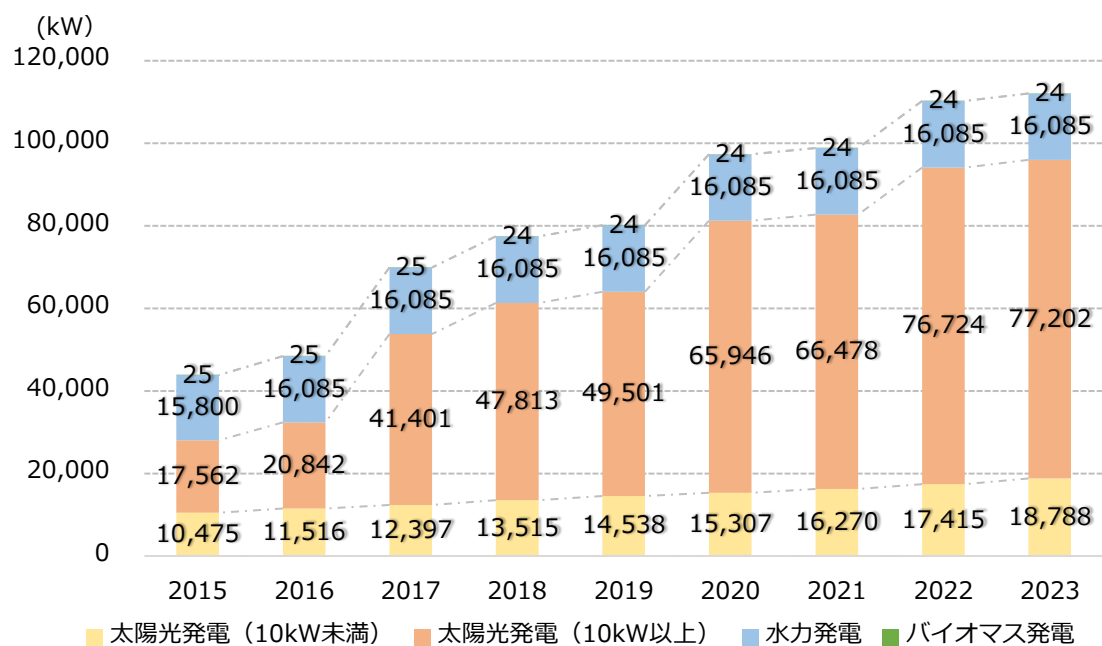
部門別 CO₂ 排出量の推移

出典：自治体排出量カルテ（環境省）

2.6 エネルギー

(1) 再生可能エネルギーの導入状況について

奥州市内の太陽光発電設備は年々導入が進められており、2023 年時点で太陽光発電の設備容量は 95,990kW である。これは、2015 年の約 3.5 倍となっている。風力発電については、市内において導入実績はない。また、水力発電、バイオマス発電については市内に導入事例があるが、増加傾向にはない。



再生可能エネルギーの導入状況

出典：自治体排出量カルテ（環境省）

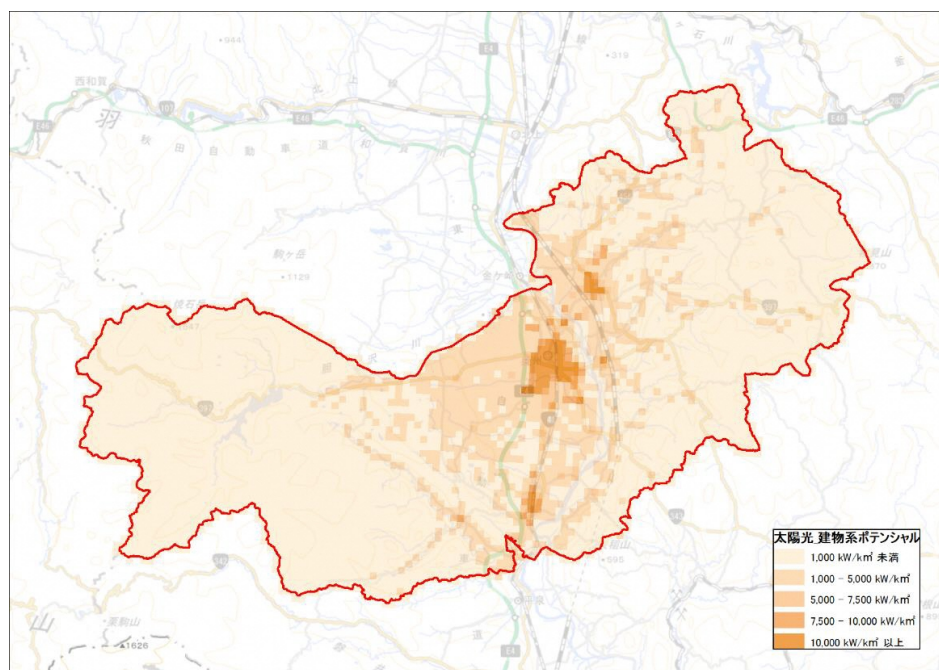
（２）再生可能エネルギーのポテンシャル

令和３年度のポテンシャル推計結果によると、奥州市における太陽光発電設備の導入ポテンシャルは設備容量 4,047,609kW、発電電力量は 4,789.039kWh である。建物のポテンシャルは水沢、江刺、前沢のような市街地エリアで高くなっている。また、土地のポテンシャルは地形が平坦な胆沢扇状地で高くなっている。

風力発電の導入ポテンシャルは設備容量 1,512,500kW、発電電力量は 4,441.935kWh である。北上山地や奥羽山脈といった山岳地帯でポテンシャルが高くなっている。

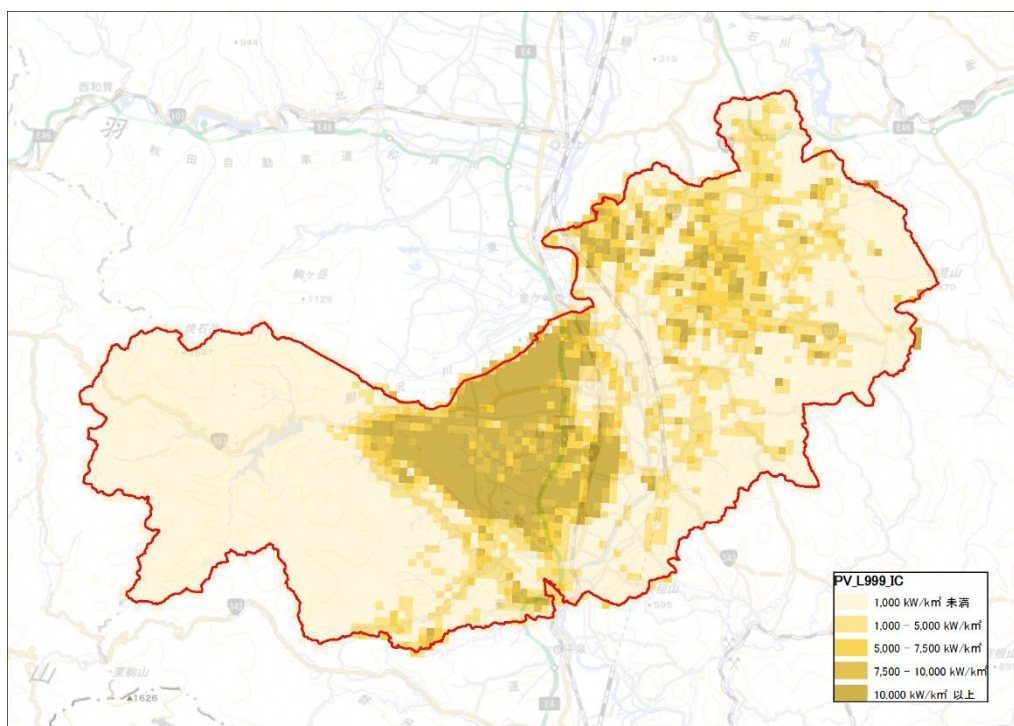
水力発電の導入ポテンシャルは設備容量 21,769kW、発電電力量は 133,328kWh である。胆沢川上流、衣川地域でポテンシャルがある河川が確認できる。一方で、流域面積は小さく落差が確保できず、ポテンシャルは高いといえない。

カテゴリ	導入実績（2023 年度）		導入ポテンシャル	
	設備容量 (kW)	発電電力量 (MWh)	設備容量 (kW)	発電電力量 (MWh)
太陽光発電	95,990	124,668	4,047,609	4,786,039
風力発電	0	0	1,512,500	4,441,935
中小水力発電	16,085	84,543	21,769	133,328
地熱発電	0	0	31	187
バイオマス発電	24	166	—	—



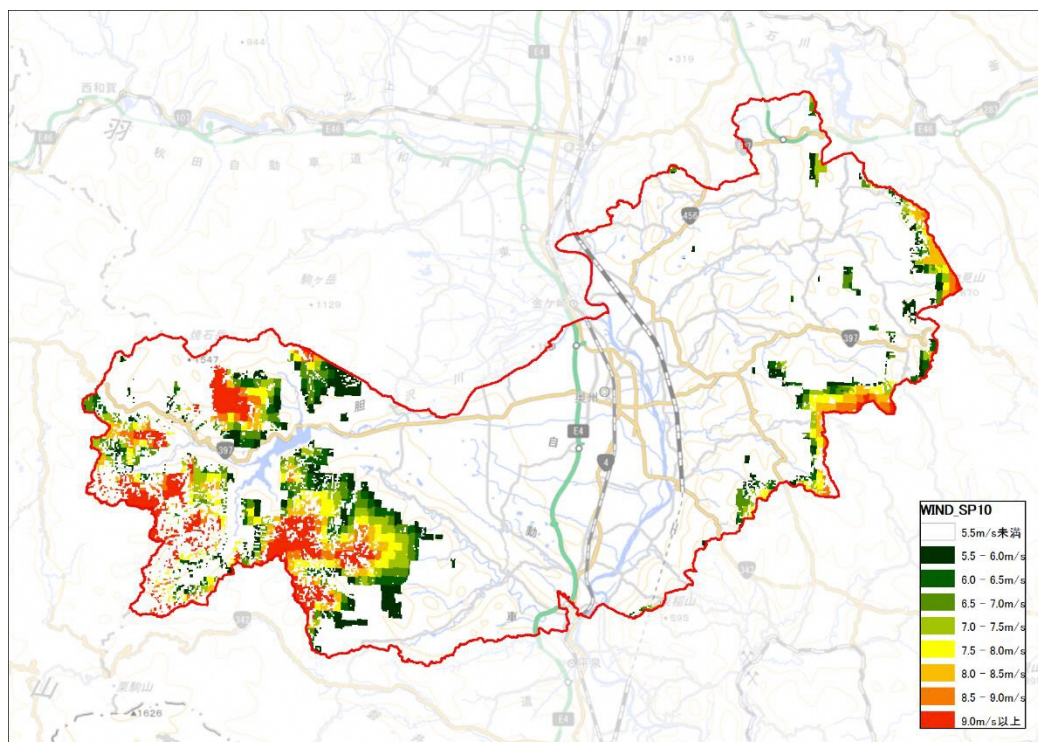
太陽光発電導入ポテンシャル（建物系の合計）

出典：再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）



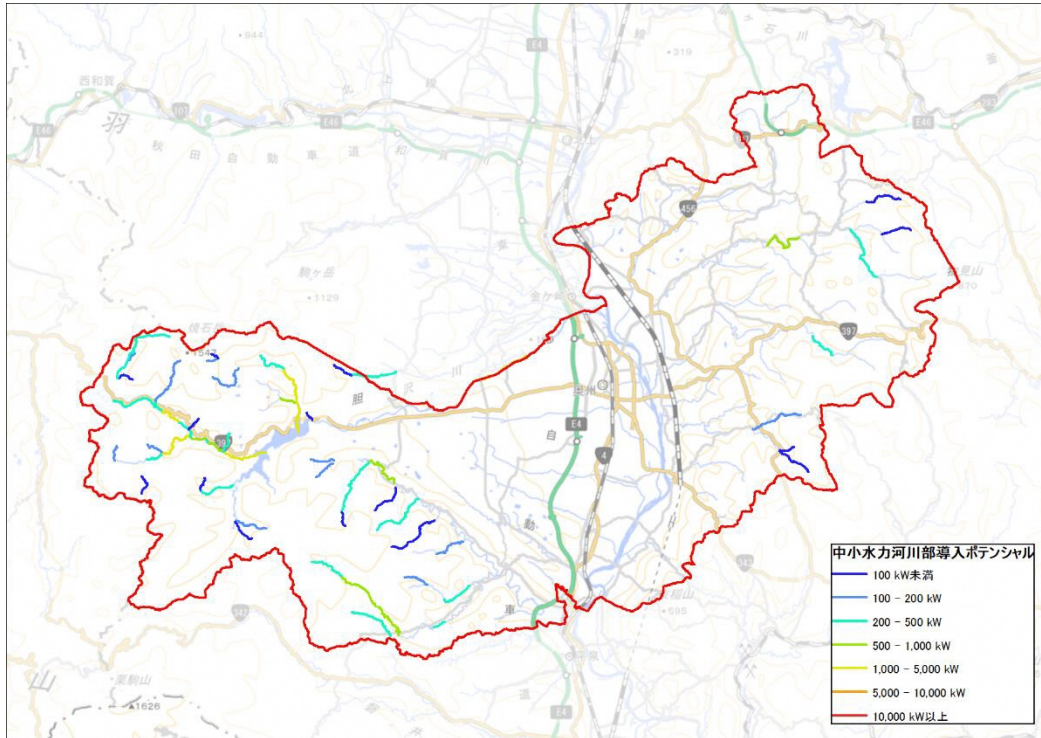
太陽光発電導入ポテンシャル（土地系の合計）

出典：再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）



太陽光発電導入ポテンシャル（土地系の合計）

出典：再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）



中小水力河川部導入ポテンシャル（土地系の合計）

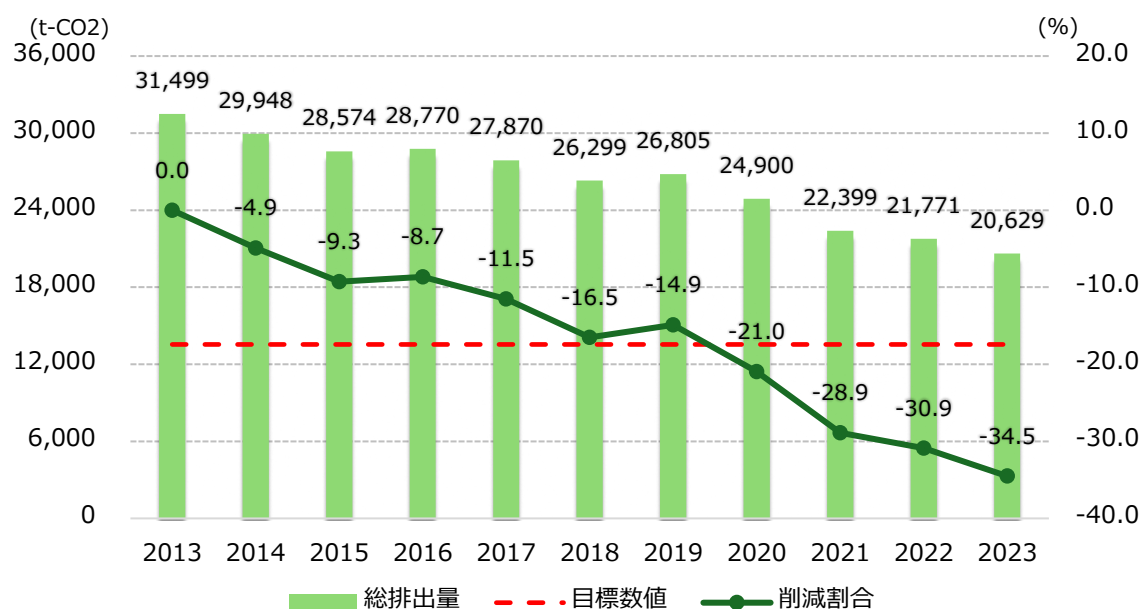
出典：再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）

(3) 事務事業におけるエネルギー消費量

奥州市における温室効果ガスの総排出量は年々減少傾向にあり、最新の 2023 年度における温室効果ガスの総排出量は 20,629t-CO₂ となっており、基準年度（2013 年度）の総排出量から 34.5%減少している。

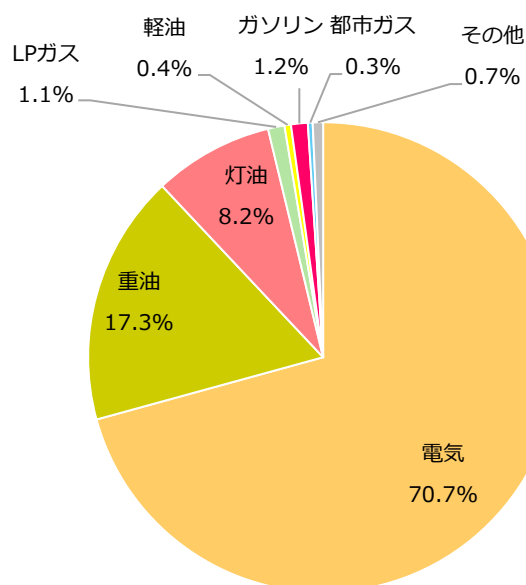
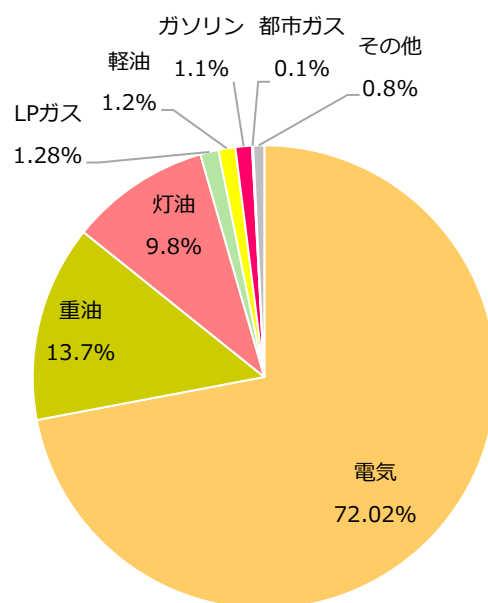
2023 年度におけるエネルギー種別ごとの温室効果ガスの総排出量の割合は、電気が 70.7%を占めている。基準年度における電気の割合は 72.0%であり、重油の排出量の割合が基準年度と比較し、4%程度増加しているものの、現在までにエネルギー種別ごとの排出量割合に大きな変化は見られず、電気由来の温室効果ガスの総排出量を減らすことが今後も重要である。

また、部署ごとの温室効果ガスの総排出量の割合についても、基準年度からの大きな変化は見られず、所有する施設や設備が多い部局の温室効果ガスの総排出量を減らすことが重要である。



温室効果ガスの総排出量の推移

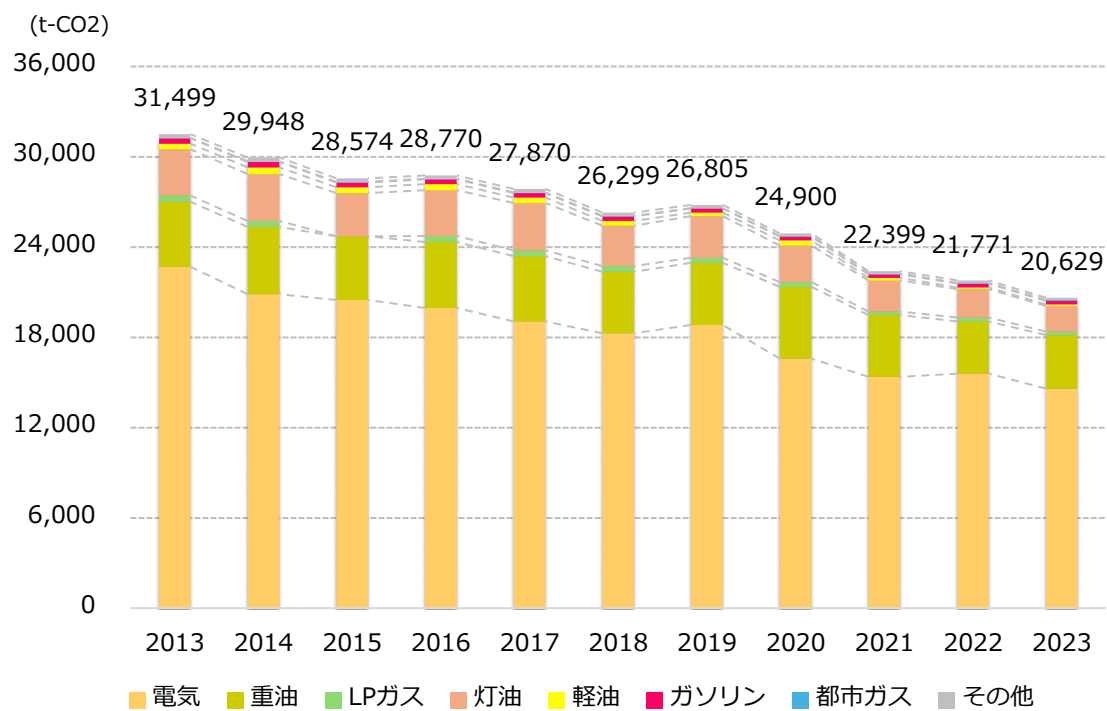
出典：奥州市 生活環境課



■ 電気
 ■ 重油
 ■ 灯油
 ■ LPガス
 ■ 軽油
 ■ ガソリン
 ■ 都市ガス
 ■ その他

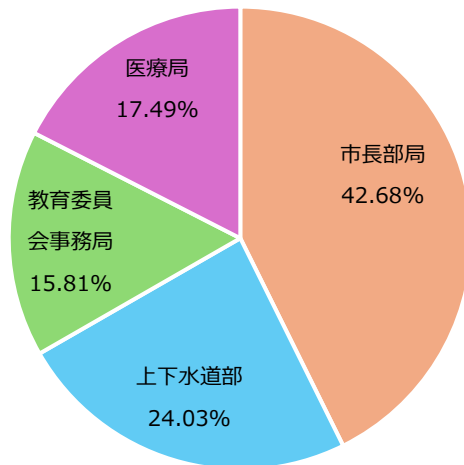
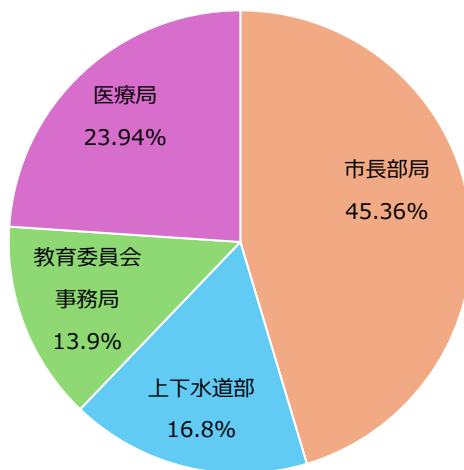
エネルギー種別ごとの温室効果ガス排出量の割合
(上) 2013 年度 (下) 2023 年度

出典：奥州市 生活環境課



エネルギー種別ごとの温室効果ガスの排出量の推移

出典：奥州市 生活環境課



■ 市長部局
 ■ 上下水道部
 ■ 教育委員会事務局
 ■ 医療局

部署ごとの温室効果ガス排出量の割合
 （上）2013 年度 （下）2023 年度

出典：奥州市 生活環境課